

名張市農業マスタープラン策定
に関する農家アンケート調査
報 告 書

平成29年4月

名張市産業部農林資源室

調査概要

1. 調査の目的

農業所得、耕作状況、将来に向けた農業経営や農地に関する考え方など、農家の現状と農業に関する意向を把握し、名張市農業マスタープラン策定における基本的資料とするために実施。

2. 実施時期

平成28年12月中旬～平成29年1月中旬

3. 調査方法

伊賀南部農業協同組合及び農家実行組合長を通じ配布し、郵送で回収。

4. 調査対象

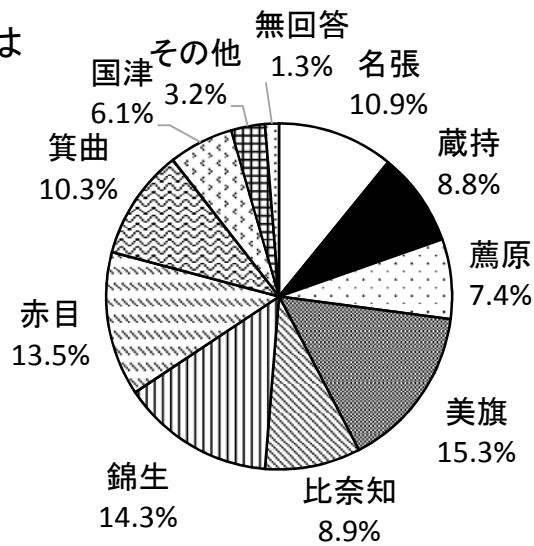
市内の農家 1, 725世帯

5. 回収数・率

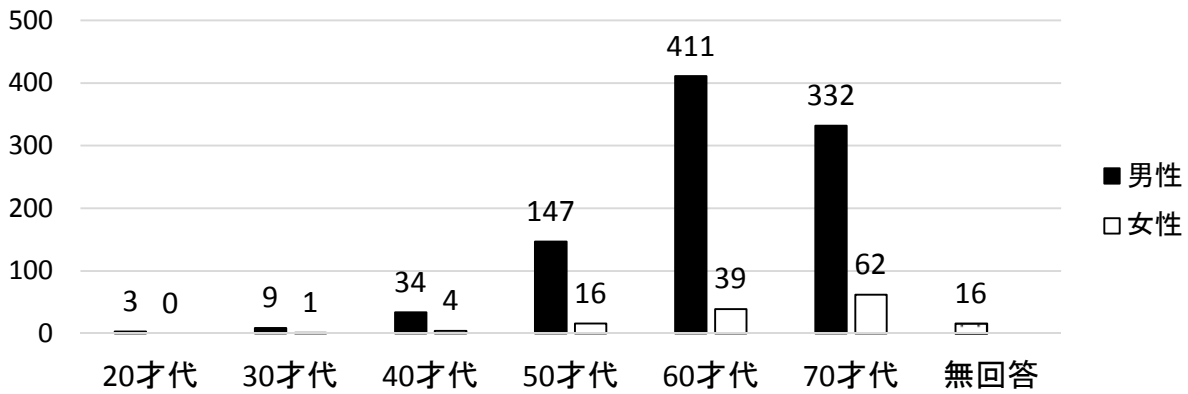
回収数 1, 074世帯

回収率 62%

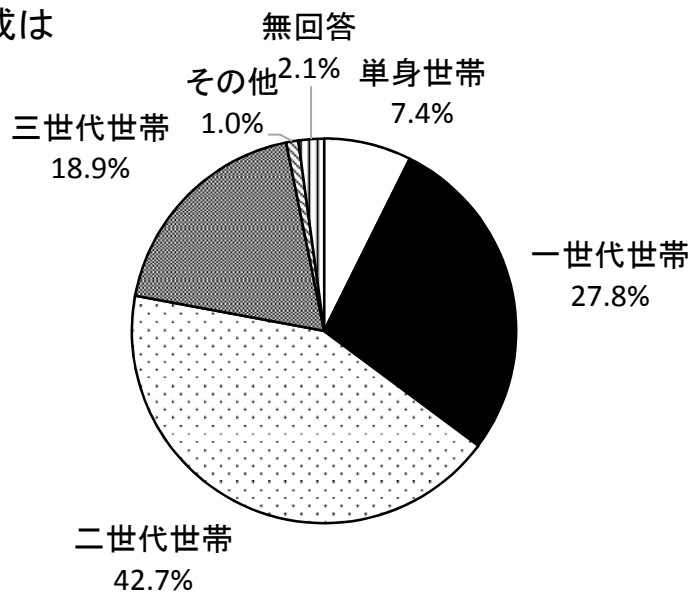
あなたのお住まいは



あなたの年代と性別
を教えてください

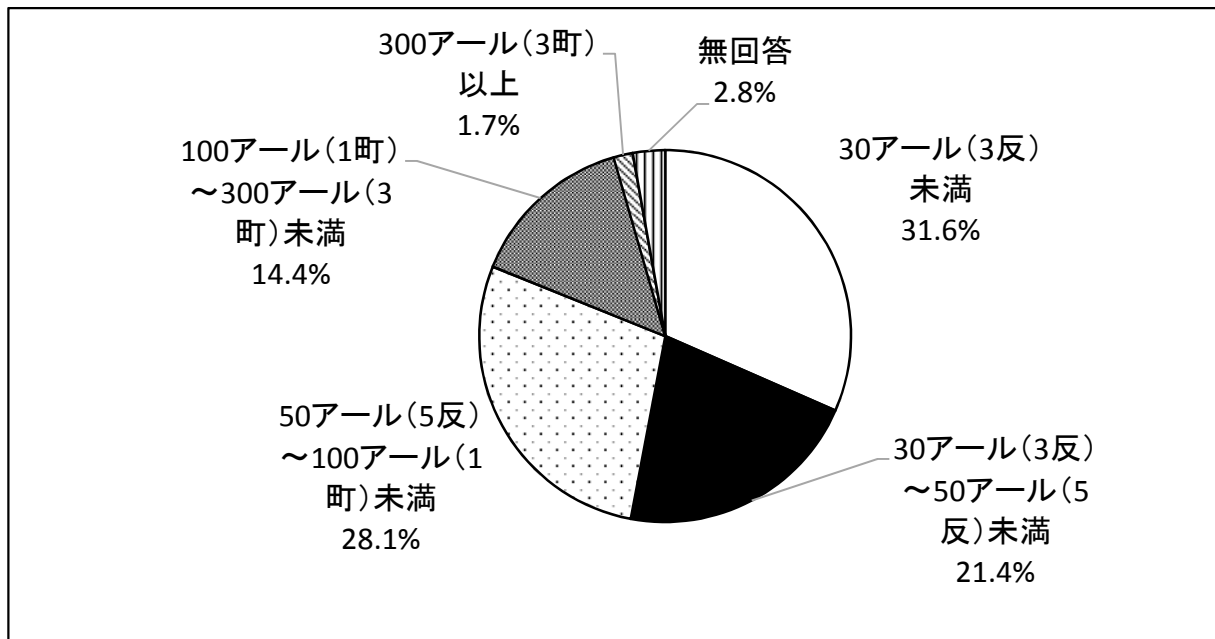


あなたの家族構成は



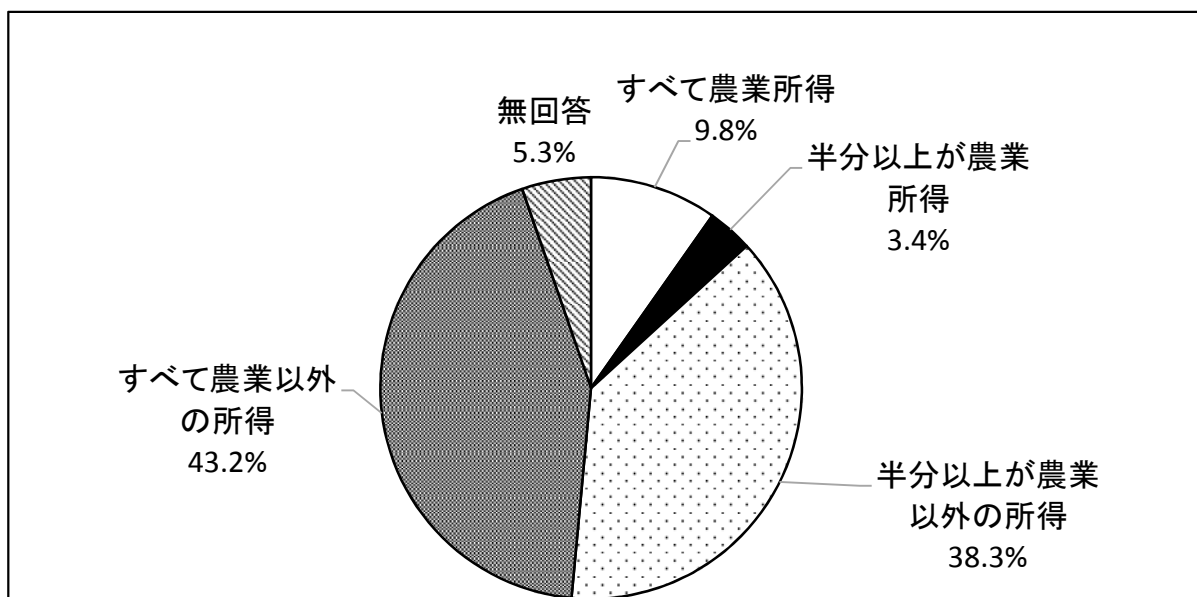
Q2-(1) あなたの家の経営耕地面積はどれくらいですか。
(作付けしていない耕地を含む)

回答項目	回答数	割合
30アール (3反) 未満	339人	0.316
30アール (3反) ~50アール (5反) 未満	230人	0.214
50アール (5反) ~100アール (1町) 未満	302人	0.281
100アール (1町) ~300アール (3町) 未満	155人	0.144
300アール (3町) 以上	18人	0.017
無回答	30人	0.028



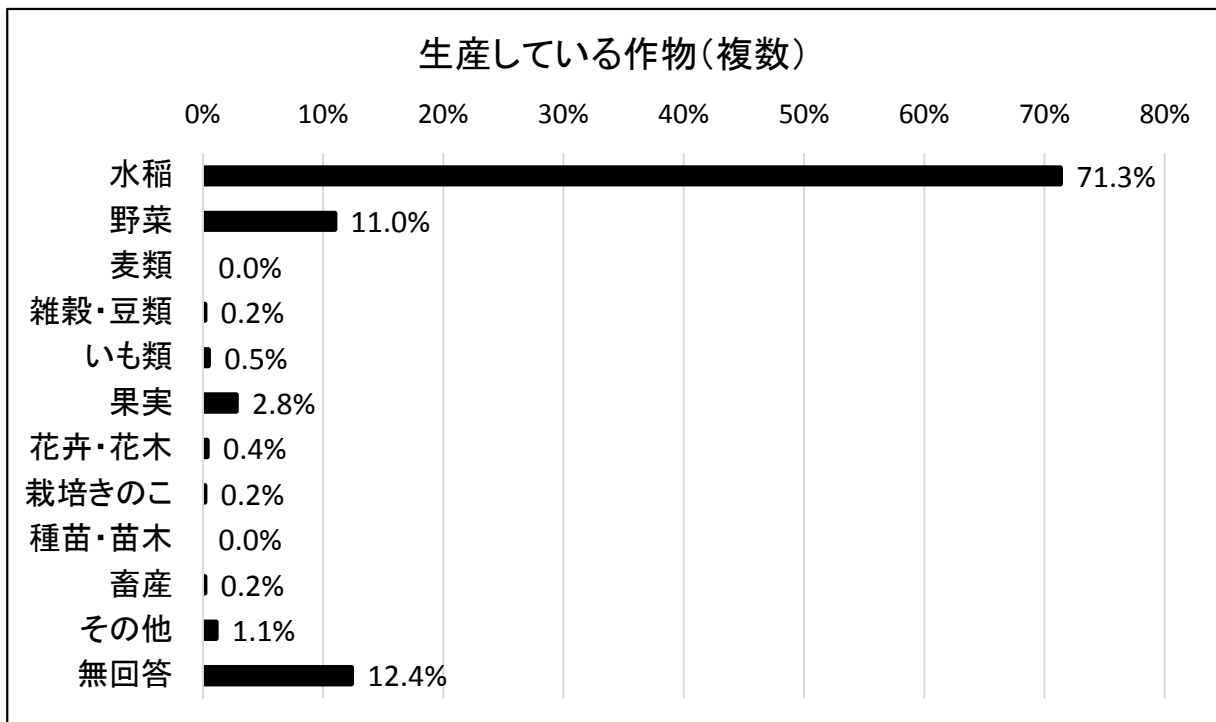
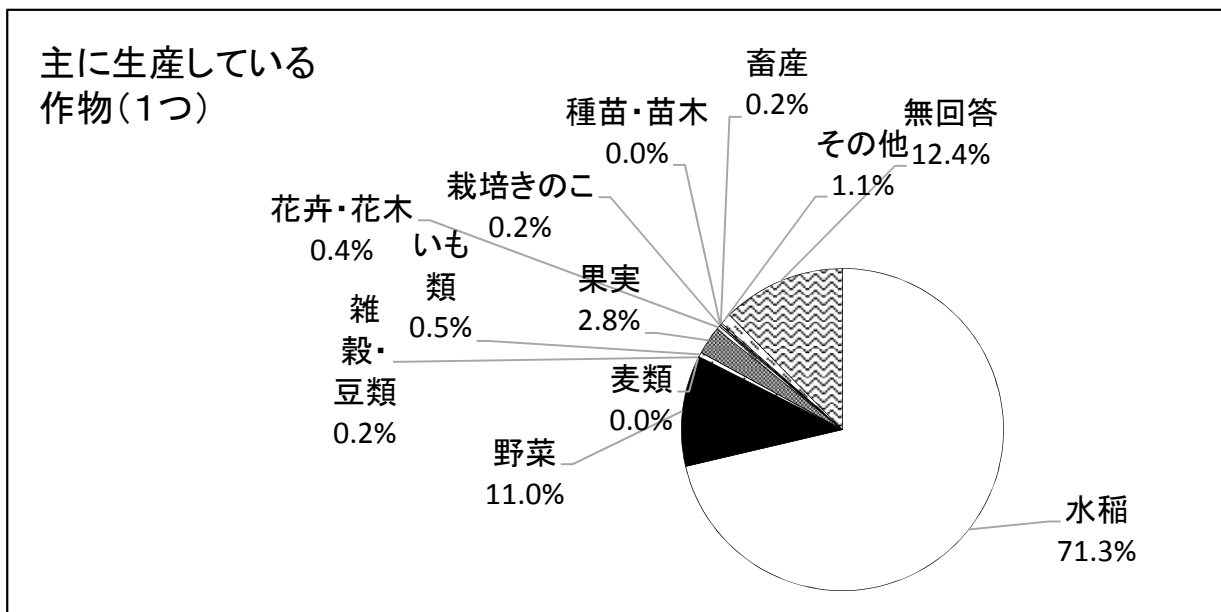
Q3-(1) あなたの家の所得についてお答えください。

回答項目	回答数	割合
すべて農業所得	105人	0.098
半分以上が農業所得	37人	0.034
半分以上が農業以外の所得	411人	0.383
すべて農業以外の所得	464人	0.432
無回答	57人	0.053



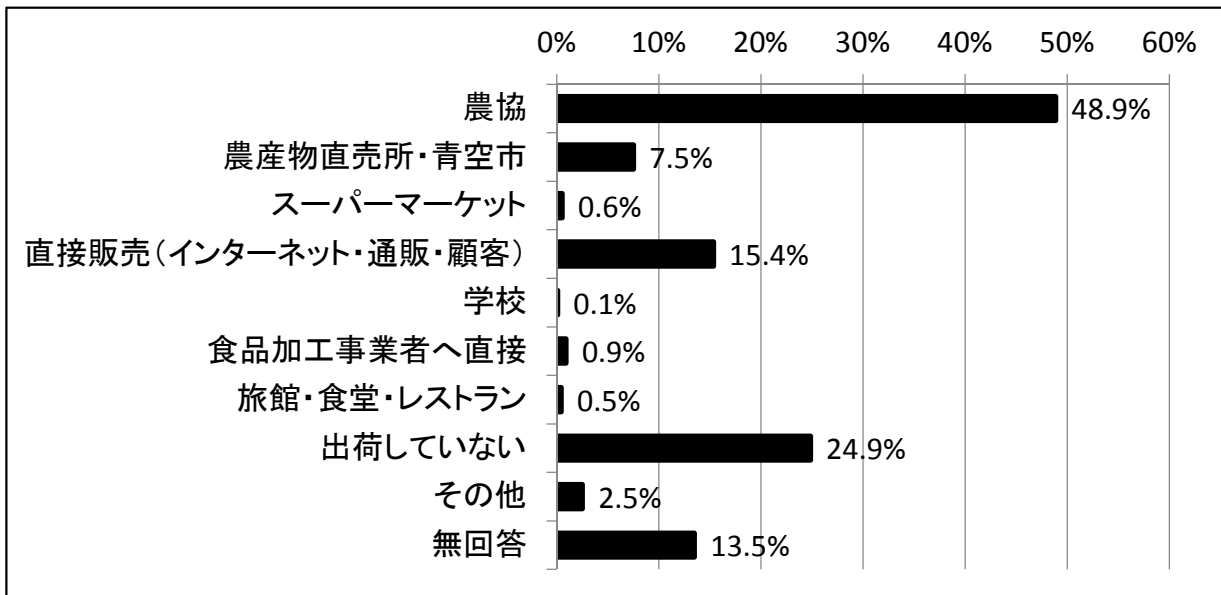
Q4-(1) あなたが生産している作物はどれですか。
 当てはまるすべての番号に○をして、主に生産している作物を一つ選んでください。

回答項目	回答数	割合
水稻	766人	0.713
野菜	118人	0.110
麦類	0人	0.000
雑穀・豆類	2人	0.002
いも類	5人	0.005
果実	30人	0.028
花卉・花木	4人	0.004
栽培きのこ	2人	0.002
種苗・苗木	0人	0.000
畜産	2人	0.002
その他	12人	0.011
無回答	133人	0.124



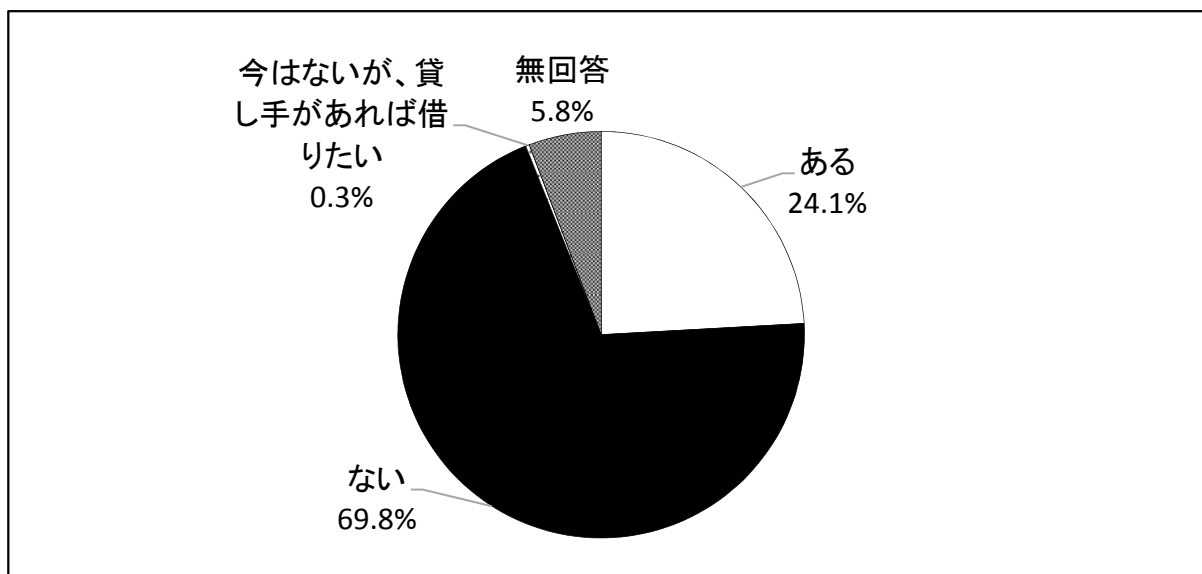
Q4-(2) あなたが生産している作物の主な出荷先はどこですか。(2つ)

回答項目	回答数	割合
農協	525人	0.489
農産物直売所・青空市	81人	0.075
スーパーマーケット	6人	0.006
直接販売(インターネット・通販・顧客)	165人	0.154
学校	1人	0.001
食品加工事業者へ直接	10人	0.009
旅館・食堂・レストラン	5人	0.005
出荷していない	267人	0.249
その他	27人	0.025
無回答	144人	0.135



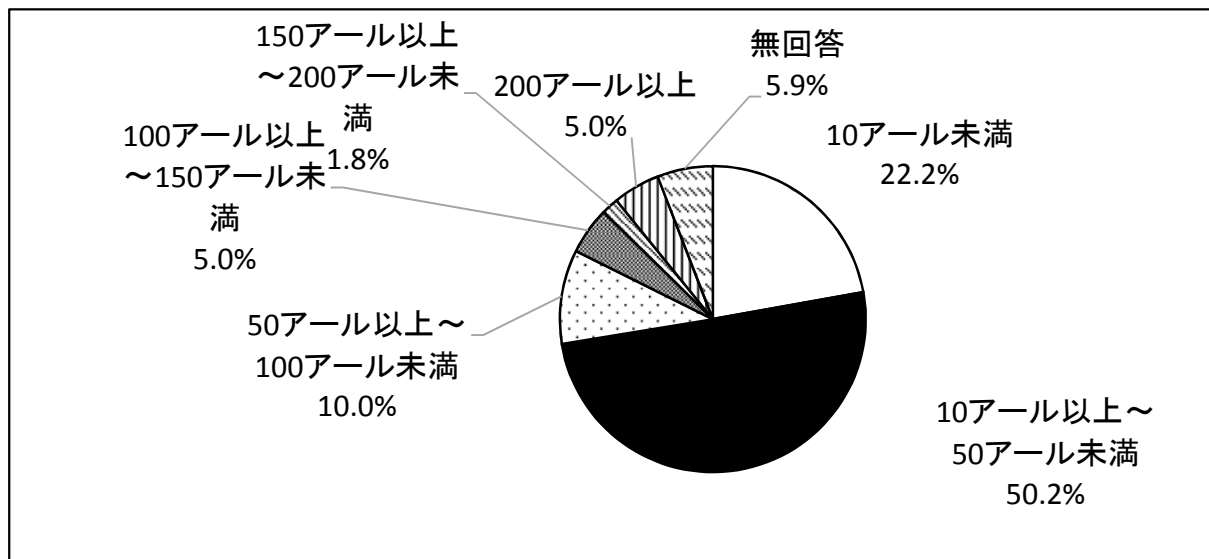
Q5-(1) あなたの家で他の農家から借りている農地はありますか。

回答項目	回答数	割合
ある	259人	0.241
ない	750人	0.698
今はないが、貸し手があれば借りたい	3人	0.003
無回答	62人	0.058



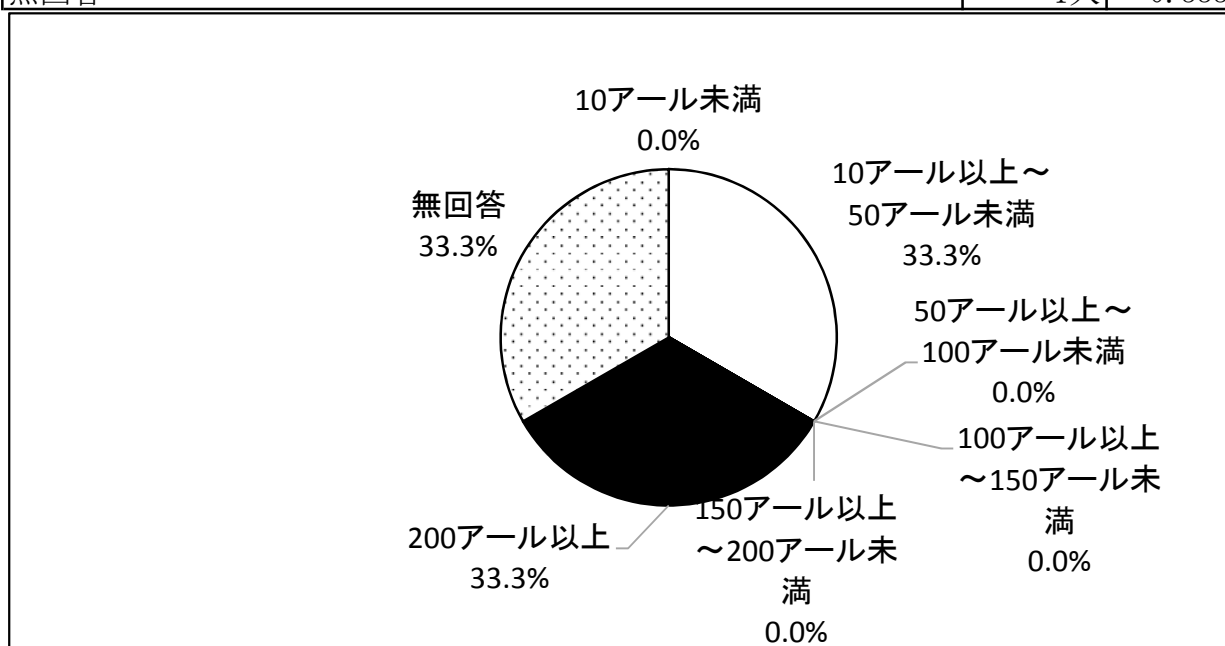
【あると答えた方】面積

項目	回答数	割合
10アール未満	49人	0.189
10アール以上～50アール未満	111人	0.429
50アール以上～100アール未満	22人	0.085
100アール以上～150アール未満	11人	0.042
150アール以上～200アール未満	4人	0.015
200アール以上	11人	0.042
無回答	13人	0.050



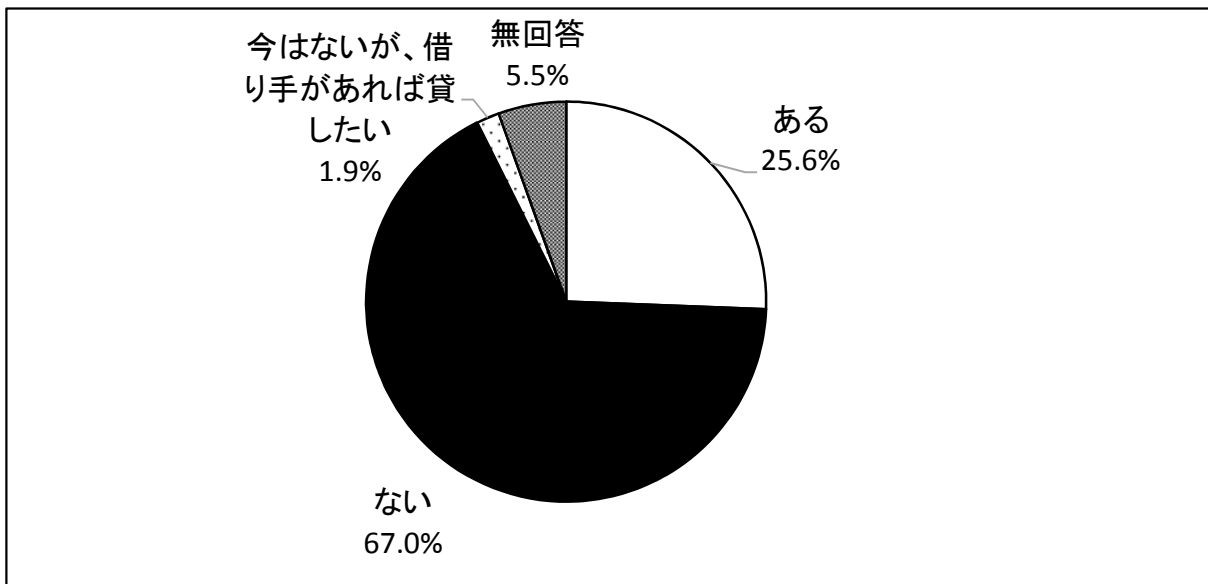
【今はないが、借り手があれば貸したい】面積

項目	回答	割合
10アール未満	0人	0.000
10アール以上～50アール未満	1人	0.333
50アール以上～100アール未満	0人	0.000
100アール以上～150アール未満	0人	0.000
150アール以上～200アール未満	0人	0.000
200アール以上	1人	0.333
無回答	1人	0.333



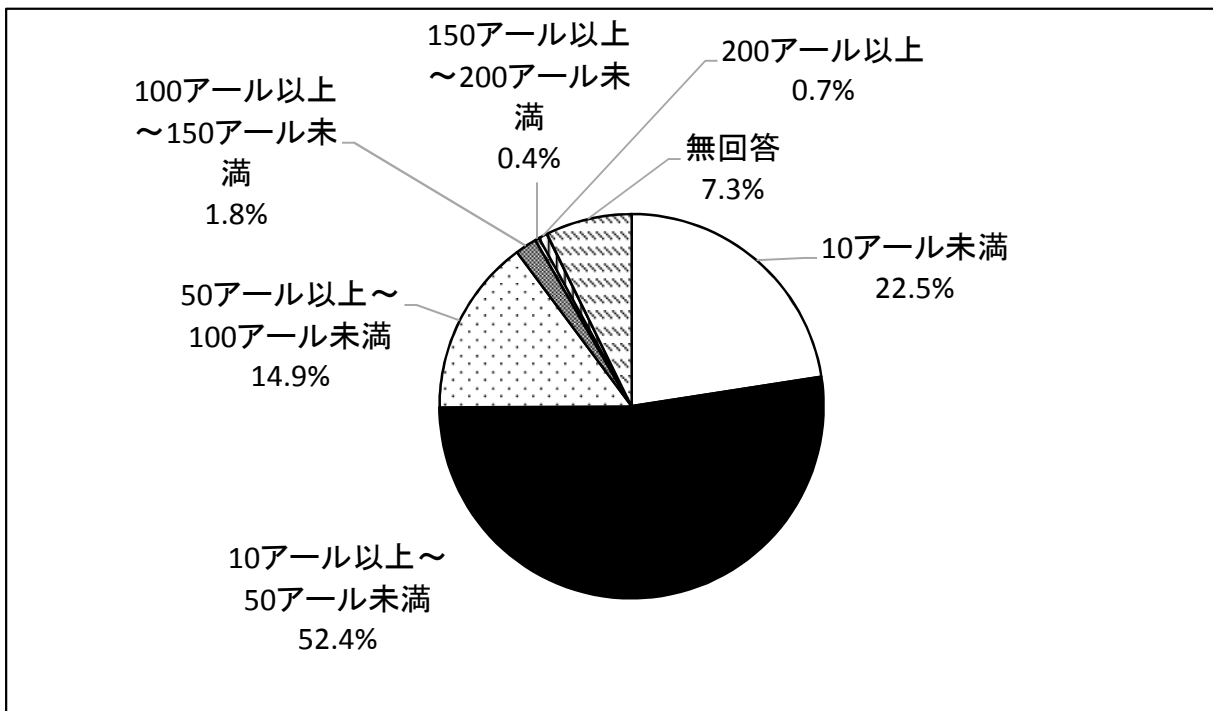
Q5-(2) あなたの家で他の農家に貸している農地はありますか。

回答項目	回答数	割合
ある	275人	0.256
ない	720人	0.670
今はないが、借り手があれば貸したい	20人	0.019
無回答	59人	0.055



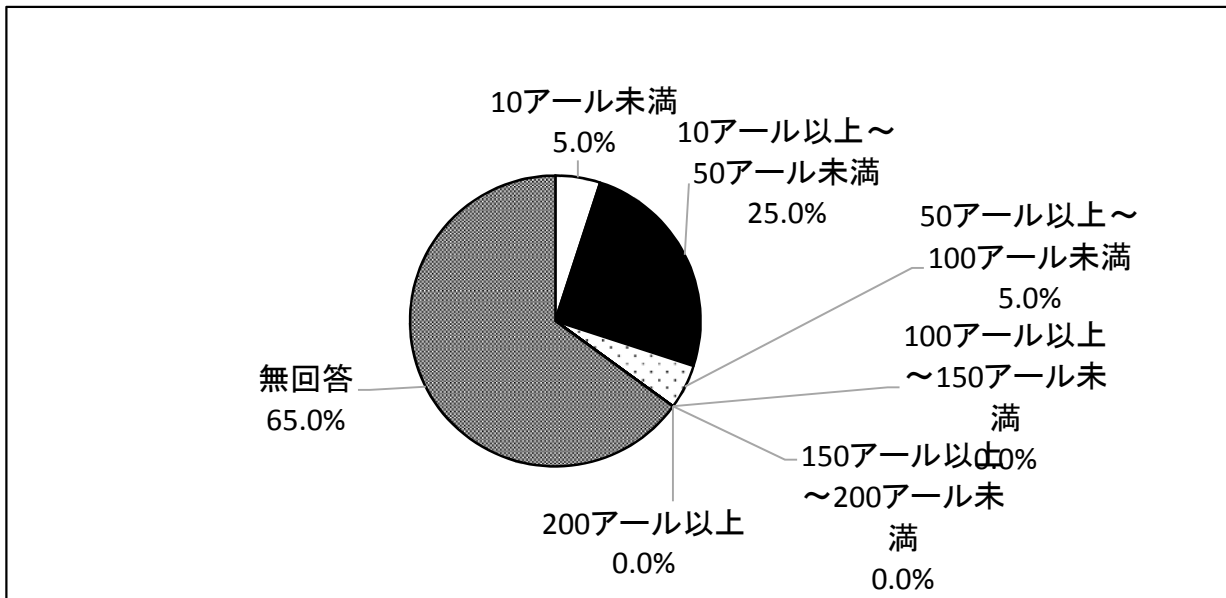
【あると答えた方】面積

項目	回答数	割合
10アール未満	62人	0.225
10アール以上～50アール未満	144人	0.524
50アール以上～100アール未満	41人	0.149
100アール以上～150アール未満	5人	0.018
150アール以上～200アール未満	1人	0.004
200アール以上	2人	0.007
無回答	20人	0.073



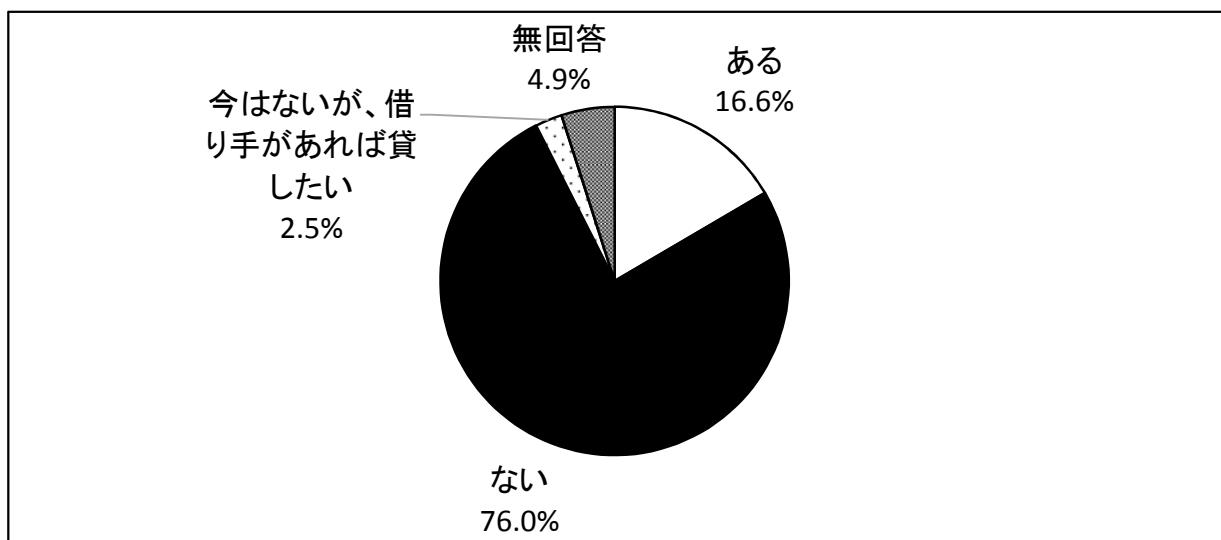
【今はないが、借り手があれば貸したい】面積

項目	回答数	割合
10アール未満	1人	0.050
10アール以上～50アール未満	5人	0.250
50アール以上～100アール未満	1人	0.050
100アール以上～150アール未満	0人	0.000
150アール以上～200アール未満	0人	0.000
200アール以上	0人	0.000
無回答	13人	0.650



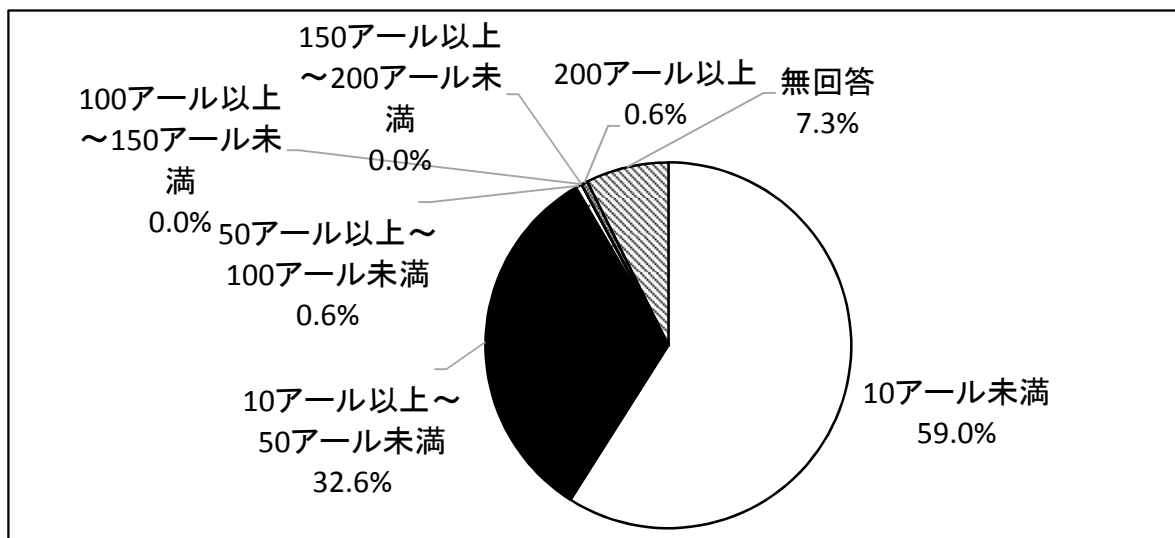
Q5-(3) あなたの家で他の非農家の人に、家庭菜園等の用途に貸している農地はありますか。

回答項目	回答数	割合
ある	178人	0.166
ない	816人	0.760
今はないが、借り手があれば貸したい	27人	0.025
無回答	53人	0.049



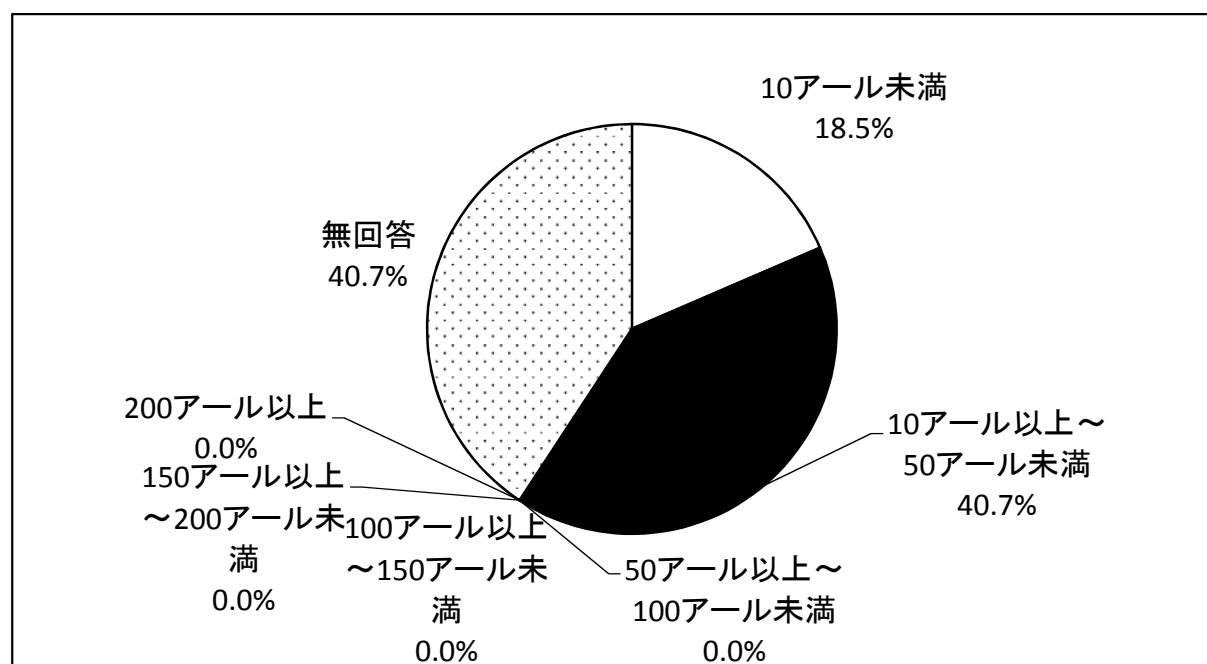
【あると答えた方】面積

項目	回答数	割合
10アール未満	105人	0.590
10アール以上～50アール未満	58人	0.326
50アール以上～100アール未満	1人	0.006
100アール以上～150アール未満	0人	0.000
150アール以上～200アール未満	0人	0.000
200アール以上	1人	0.006
無回答	13人	0.073



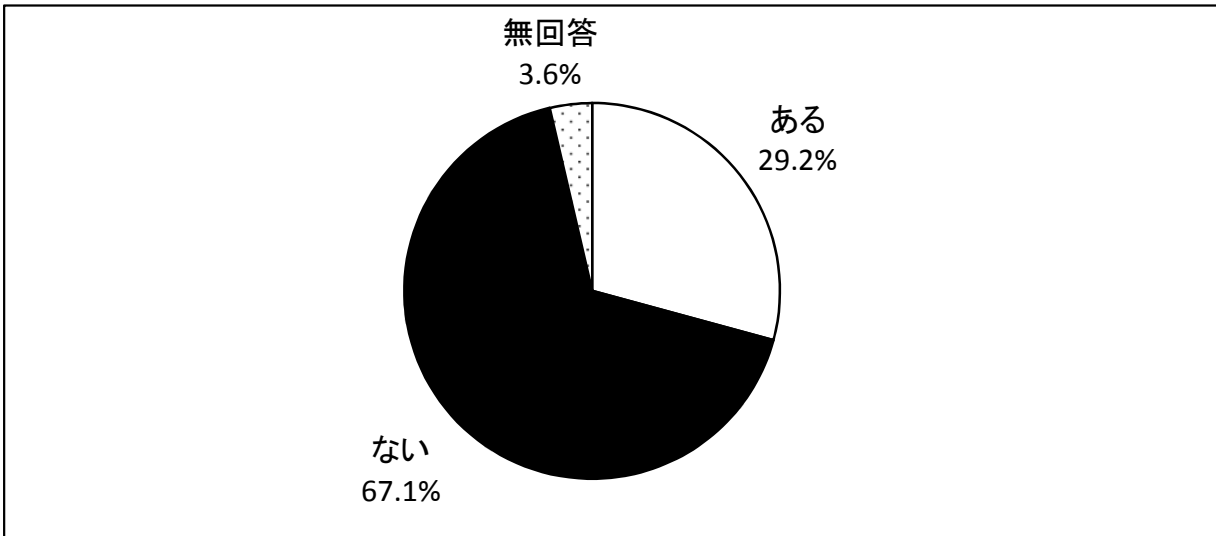
【今はないが、借り手があれば貸したい】面積

項目	回答数	割合
10アール未満	5人	0.185
10アール以上～50アール未満	11人	0.407
50アール以上～100アール未満	0人	0.000
100アール以上～150アール未満	0人	0.000
150アール以上～200アール未満	0人	0.000
200アール以上	0人	0.000
無回答	11人	0.407



Q6-(1) あなたの家で、他の農家や農協等に委託している農作業はありますか。

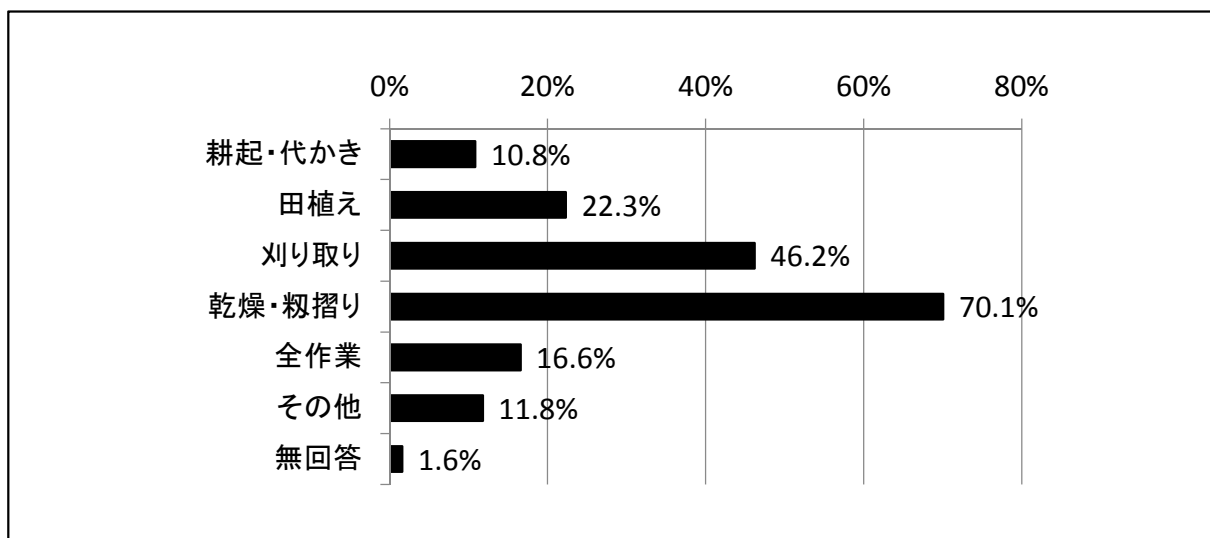
回答項目	回答数	割合
ある	314人	0.292
ない	721人	0.671
無回答	39人	0.036



Q6-(2) 【(1)で①あると答えた人】

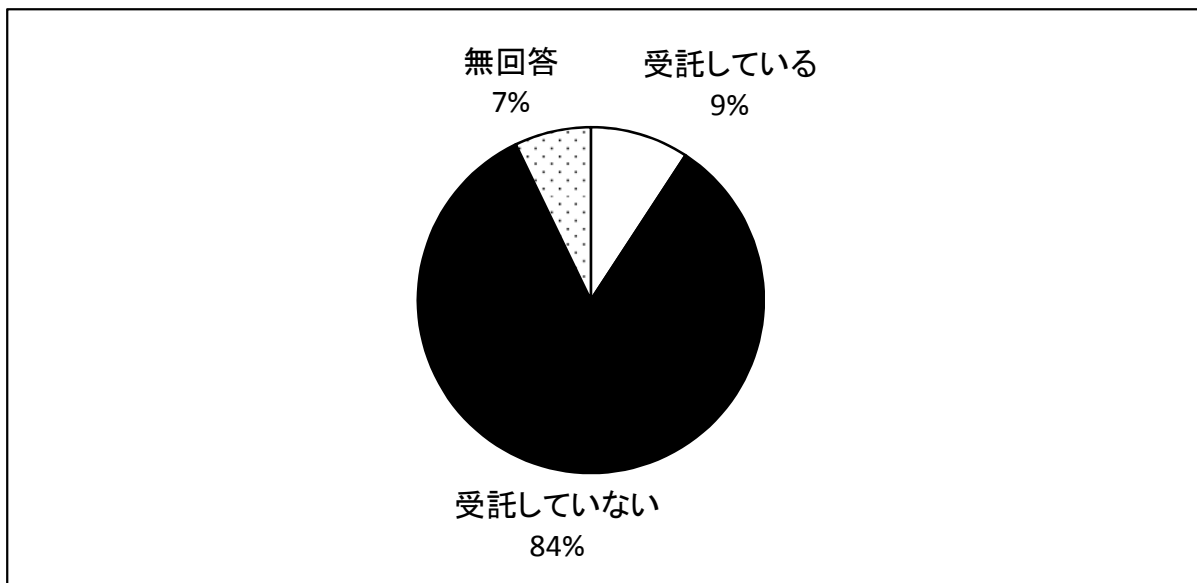
あなたが、委託している農作業はどれですか。当てはまるすべての番号に○をしてください。

回答項目	回答数	割合
耕起・代かき	34人	0.108
田植え	70人	0.223
刈り取り	145人	0.462
乾燥・籾摺り	220人	0.701
全作業	52人	0.166
その他	37人	0.118
無回答	5人	0.016



Q7-(1) あなたの家では、他の農家から農作業を受託していますか。

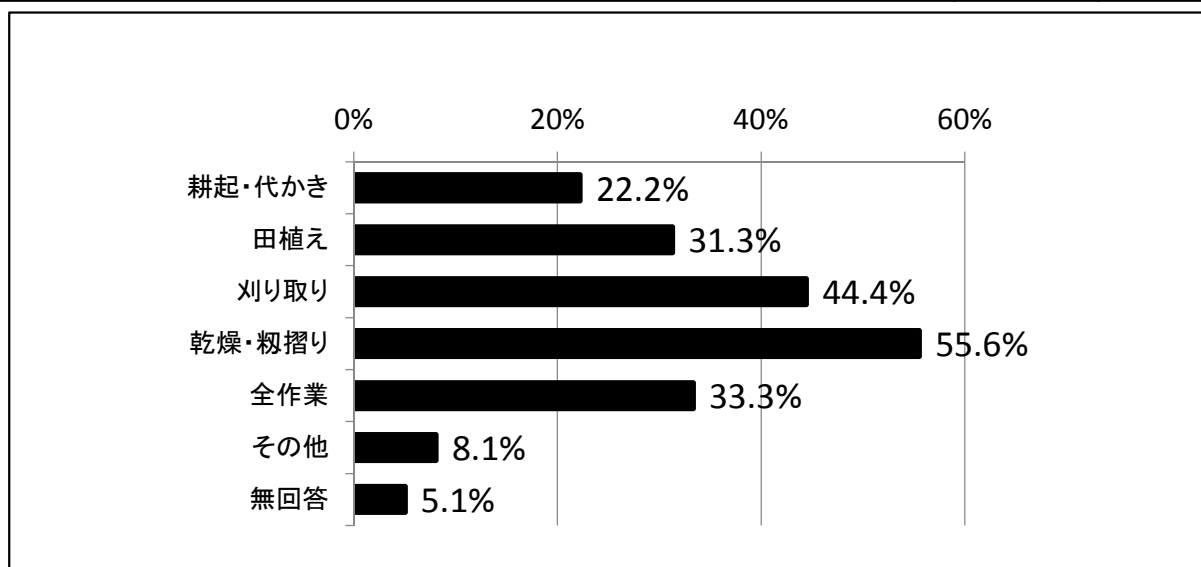
回答項目	回答数	割合
受託している	99人	0.092
受託していない	898人	0.836
無回答	77人	0.072



Q7-(2) 【(1)で①あると答えた人】

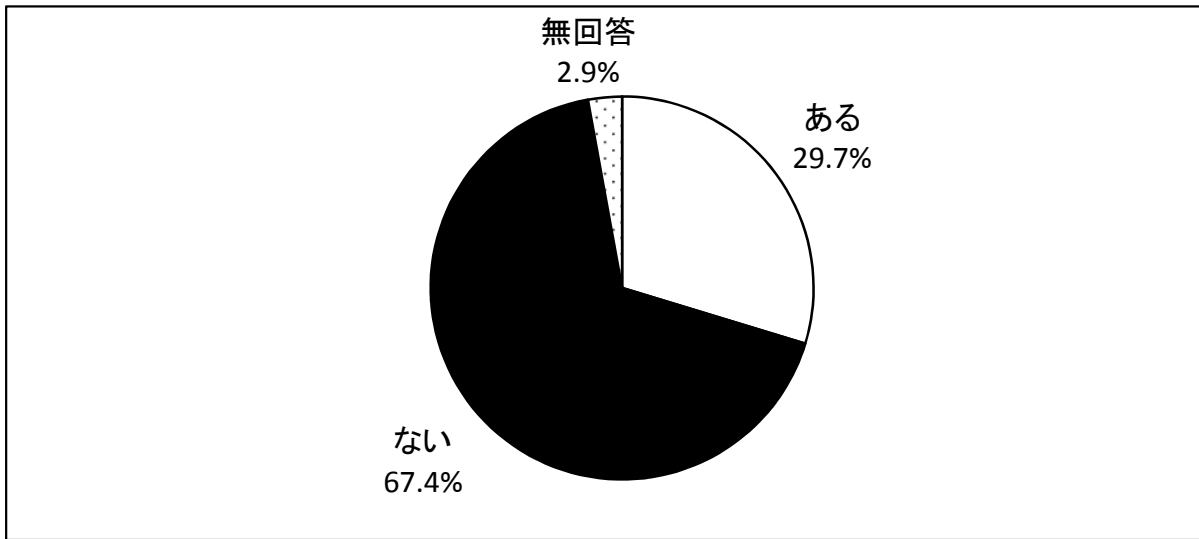
あなたが受託している農作業は次のうちどれですか。当てはまるすべての番号に○をしてください。

回答項目	回答数	割合
耕起・代かき	22人	0.222
田植え	31人	0.313
刈り取り	44人	0.444
乾燥・籾摺り	55人	0.556
全作業	33人	0.333
その他	8人	0.081
無回答	5人	0.051



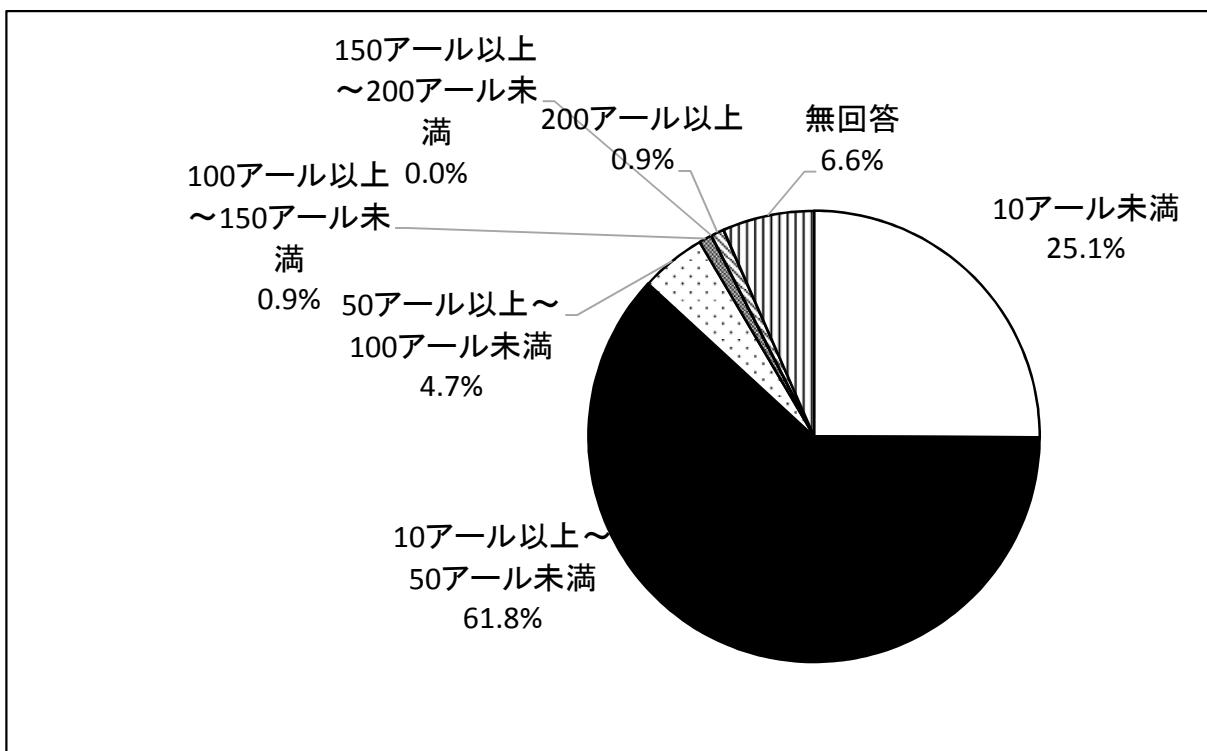
Q8-(1) あなたの所有する農地の中で、耕作放棄地はありますか。

回答項目	回答数	割合
ある	319人	0.297
ない	724人	0.674
無回答	31人	0.029



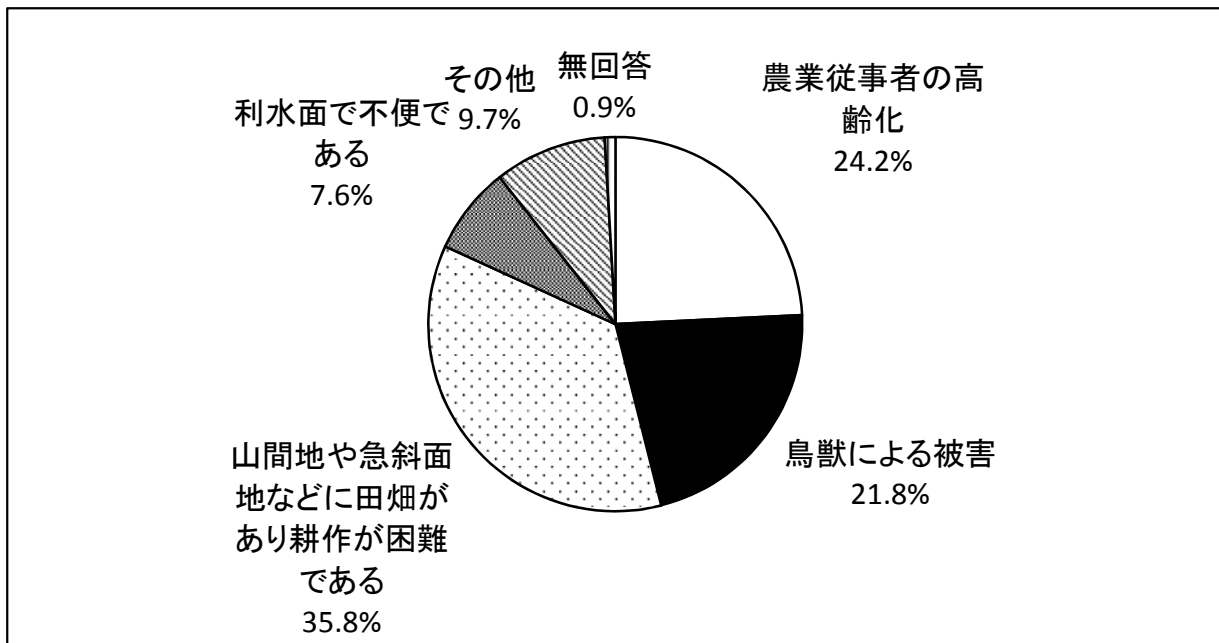
Q8-(2)-① (1)で①あると答えた人
その耕作放棄地の面積はどのくらいですか。

項目	回答数	割合
10アール未満	80人	0.251
10アール以上～50アール未満	197人	0.618
50アール以上～100アール未満	15人	0.047
100アール以上～150アール未満	3人	0.009
150アール以上～200アール未満	0人	0.000
200アール以上	3人	0.009
無回答	21人	0.066



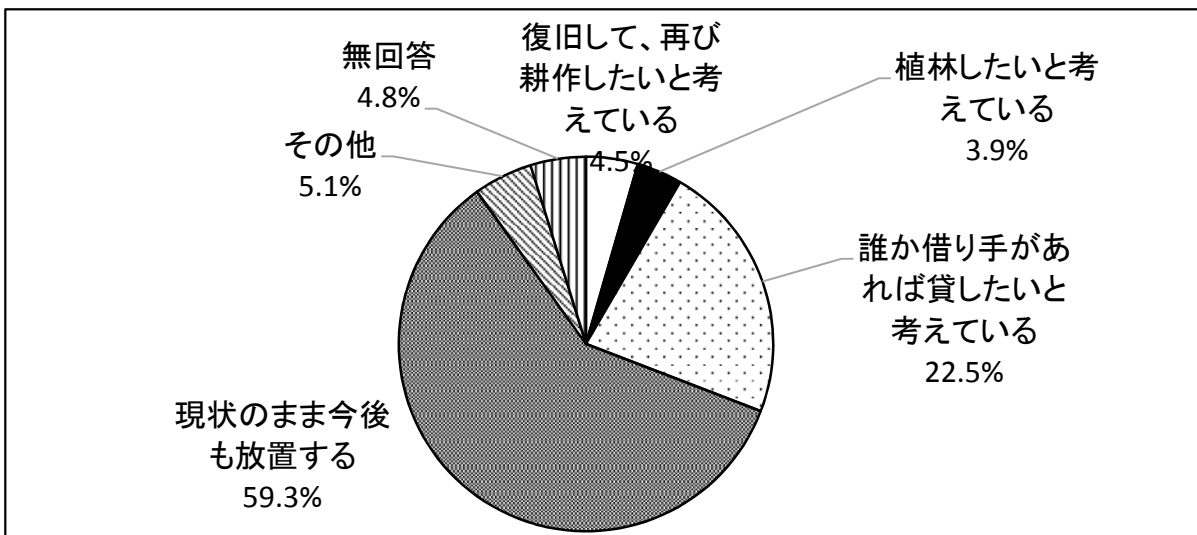
Q8-(2)-② (1)で①あると答えた人
耕作を放棄することとなった主な理由は何ですか。

回答項目	回答数	割合
農業従事者の高齢化	80人	0.251
鳥獣による被害	72人	0.226
山間地や急斜面地などに田畑があり耕作が困難である	118人	0.370
利水面で不便である	25人	0.078
その他	32人	0.100
無回答	3人	0.009



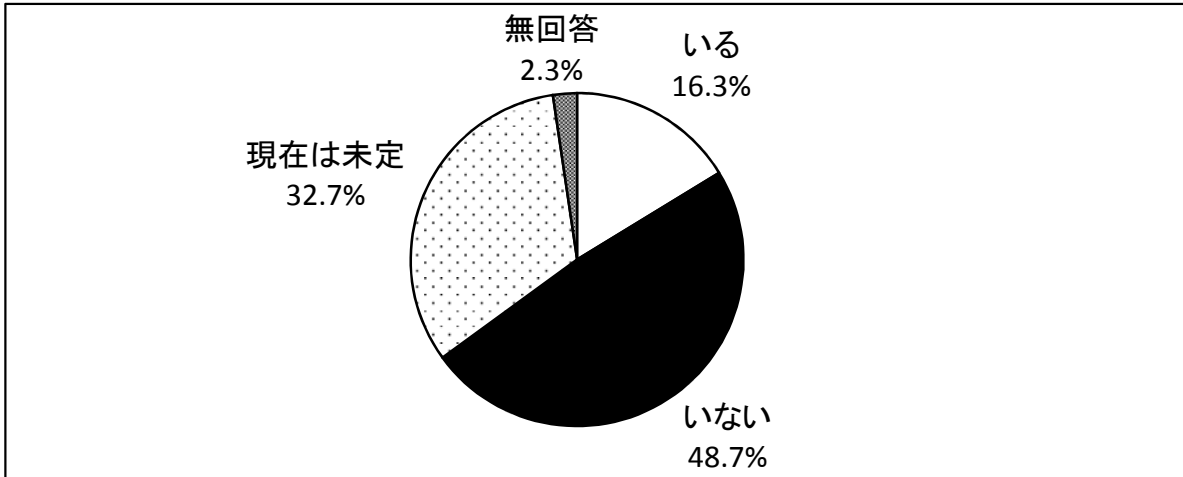
Q8-(2)-③ (1)で①あると答えた人
あなたはその耕作放棄地を今後どのようにしたいと考えていますか。

回答項目	回答数	割合
復旧して、再び耕作したいと考えている	15人	0.047
植林したいと考えている	13人	0.041
誰か借り手があれば貸したいと考えている	75人	0.235
現状のまま今後も放置する	198人	0.621
その他	17人	0.053
無回答	16人	0.050



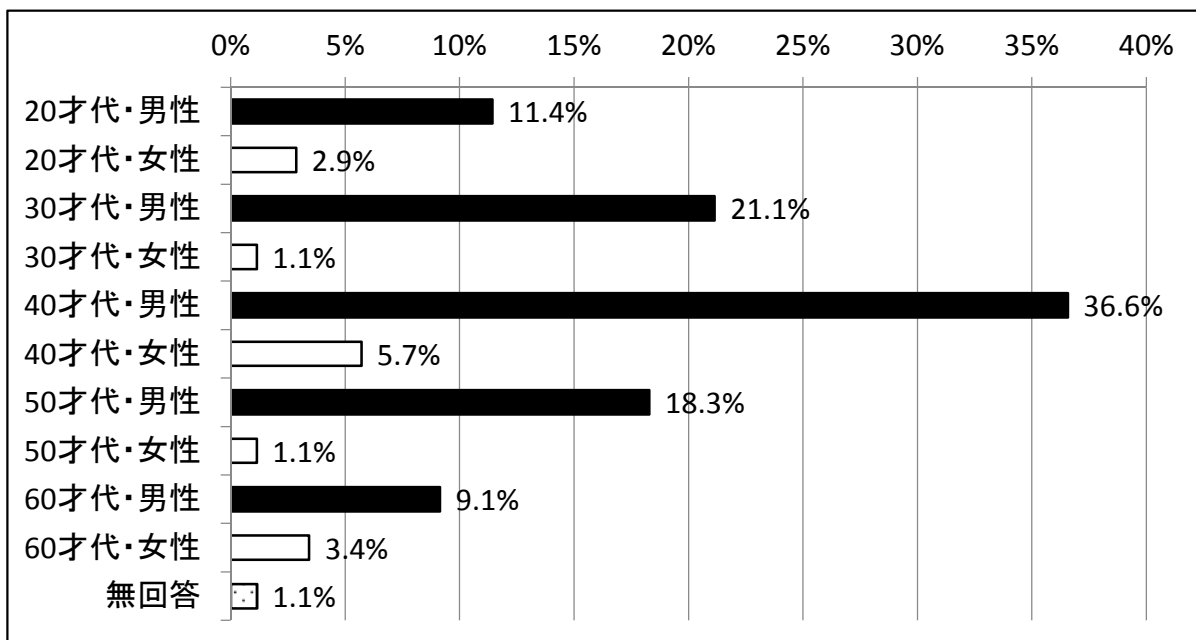
Q9-(1) あなたの家の中で、今後、農業を担ってくれる方はいますか。

回答項目	回答数	割合
いる	175人	0.163
いない	523人	0.487
現在は未定	351人	0.327
無回答	25人	0.023



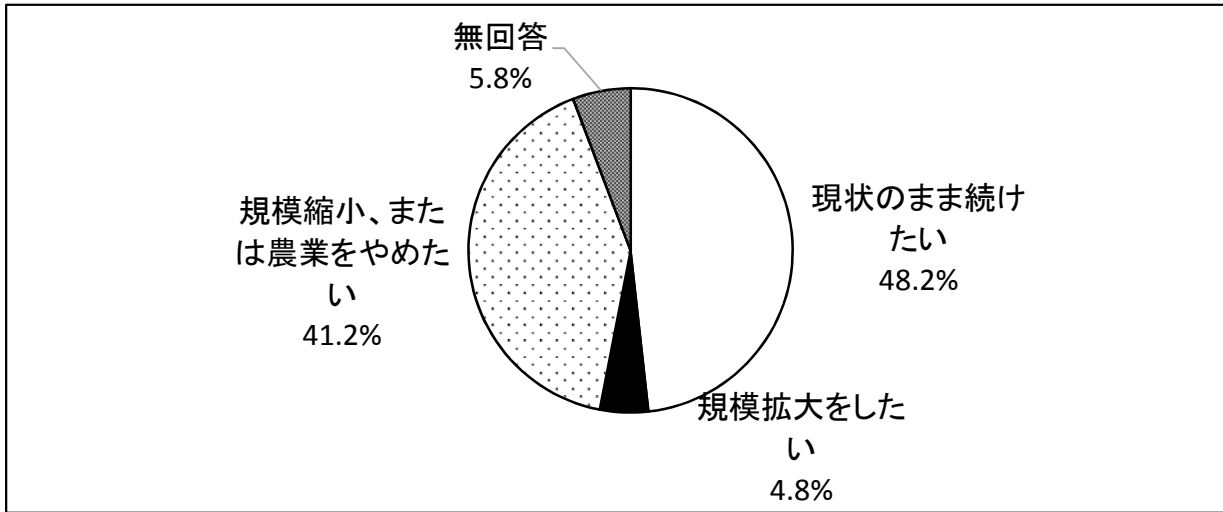
Q9-(2) (1)で①いると答えた方
今後、農業を担ってくれる方の年代・性別を教えてください。

回答項目	回答数	割合
20才代・男性	20人	0.114
20才代・女性	5人	0.029
30才代・男性	37人	0.211
30才代・女性	2人	0.011
40才代・男性	64人	0.366
40才代・女性	10人	0.057
50才代・男性	32人	0.183
50才代・女性	2人	0.011
60才代・男性	16人	0.091
60才代・女性	6人	0.034
無回答	2人	0.011



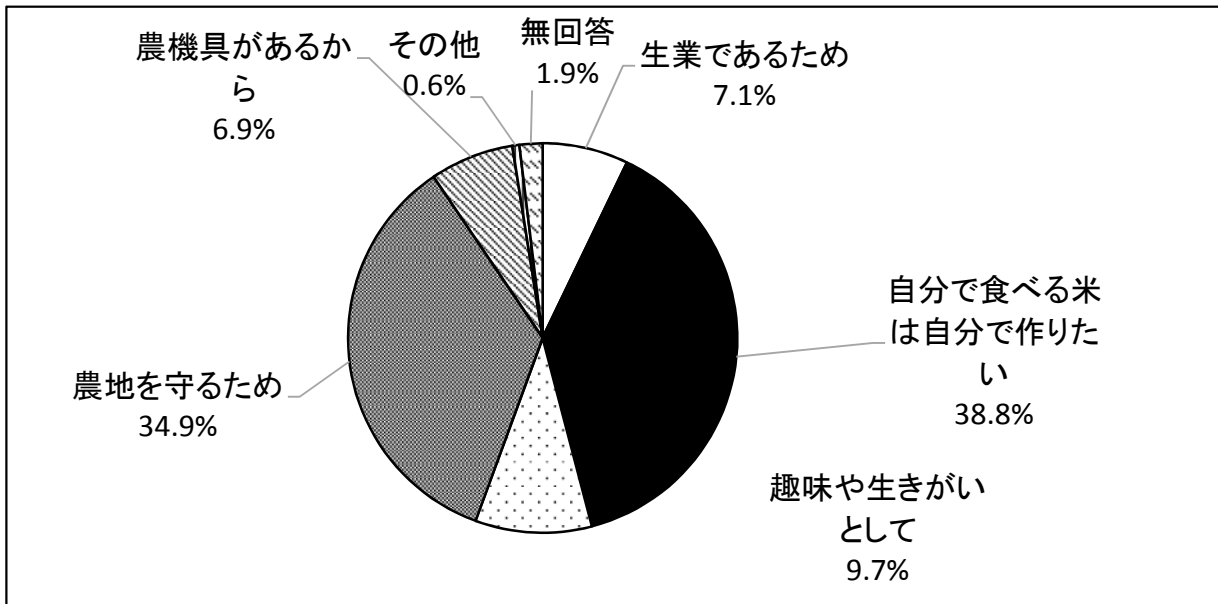
Q9-(3) 今後の農業経営をどのようにしたいと考えていますか。

回答項目	回答数	割合
現状のまま続けたい	518	0.482
規模拡大をしたい	52	0.048
規模縮小、または農業をやめたい	442	0.412
無回答	62	0.058



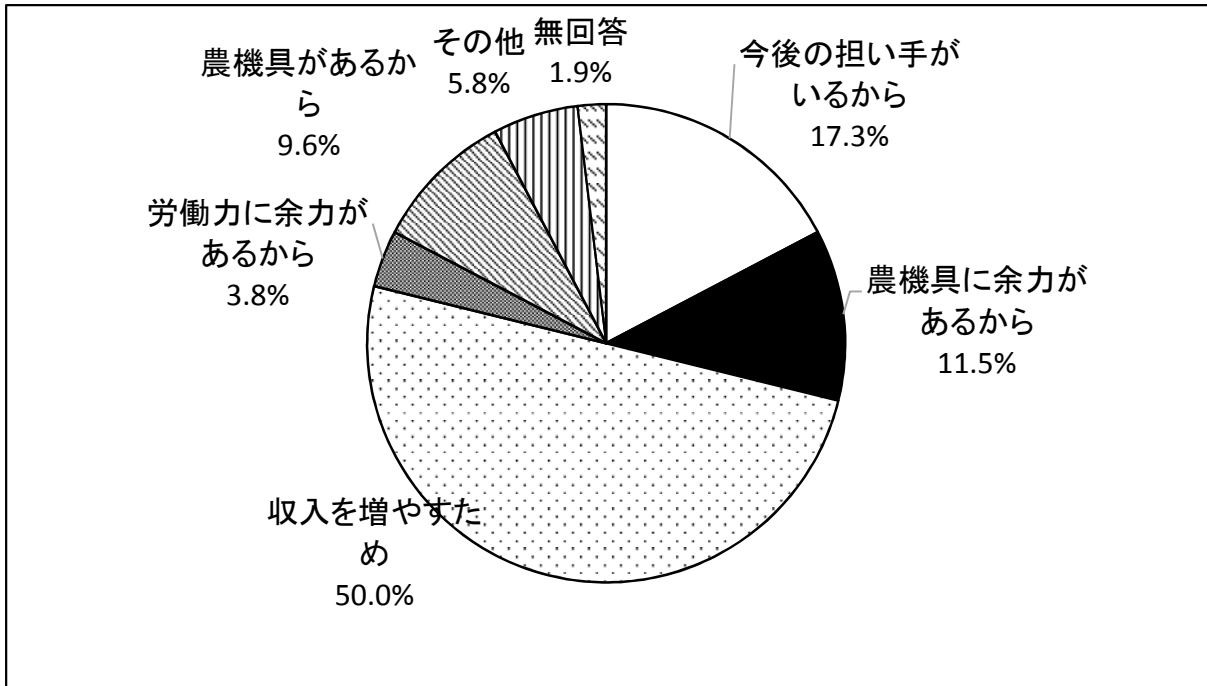
Q9-(3)-① 現状のまま続けたい

回答項目	回答数	割合
生業であるため	37人	0.071
自分で食べる米は自分で作りたい	201人	0.388
趣味や生きがいとして	50人	0.097
農地を守るため	181人	0.349
農機具があるから	36人	0.069
その他	3人	0.006
無回答	10人	0.019



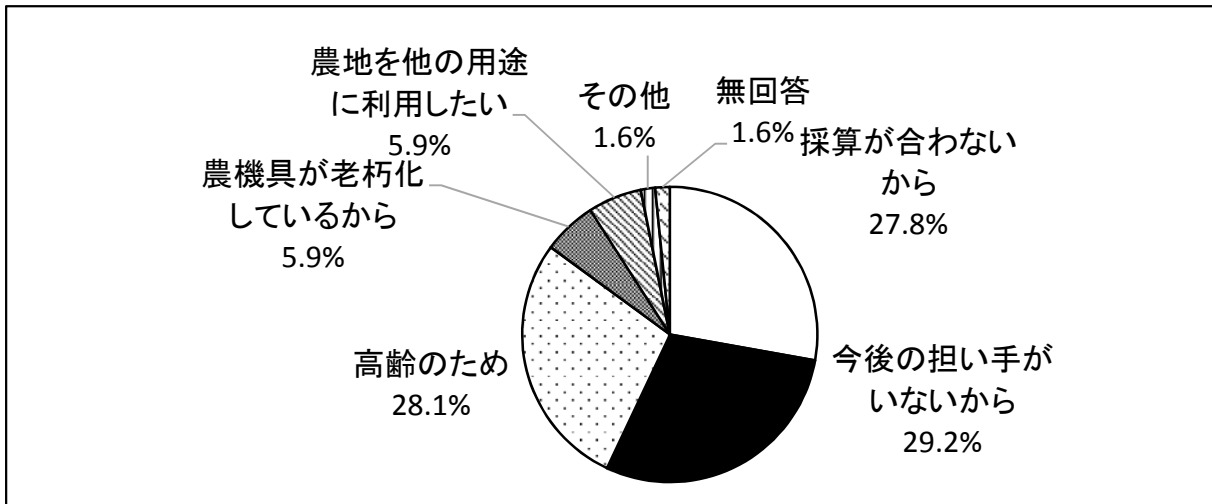
Q9-(3)-② 規模を拡大したい

回答項目	回答数	割合
今後の担い手がいるから	9人	0.173
農機具に余力があるから	6人	0.115
収入を増やすため	26人	0.500
労働力に余力があるから	2人	0.038
農機具があるから	5人	0.096
その他	3人	0.058
無回答	1人	0.019



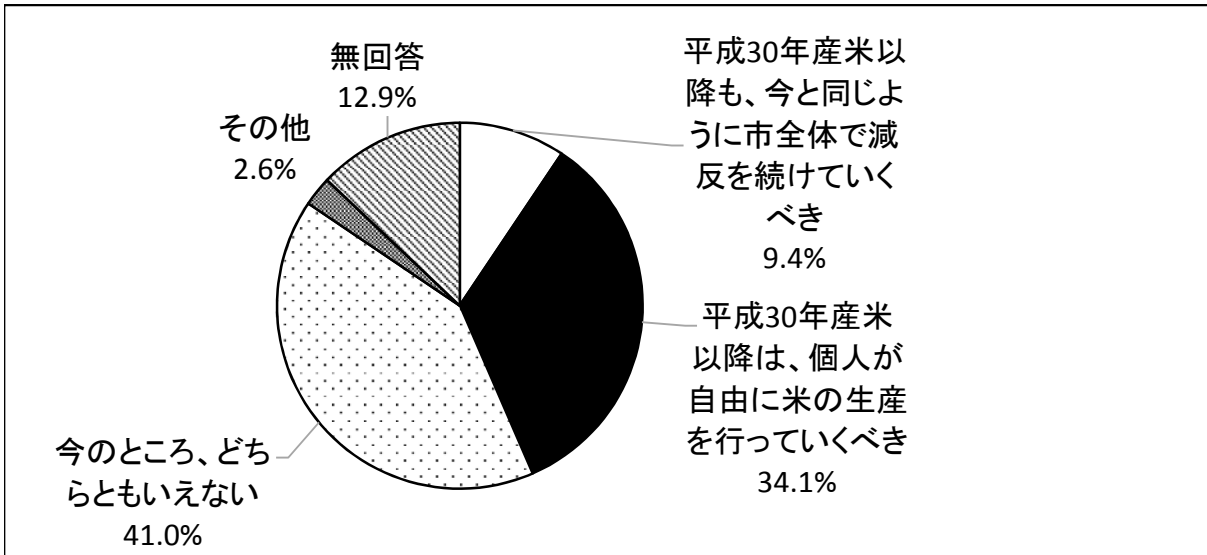
Q9-(3)③ 規模縮小、または農業をやめたい

回答項目	回答数	割合
採算が合わないから	123人	0.278
今後の担い手がないから	129人	0.292
高齢のため	124人	0.281
農機具が老朽化しているから	26人	0.059
農地を他の用途に利用したい	26人	0.059
その他	7人	0.016
無回答	7人	0.016



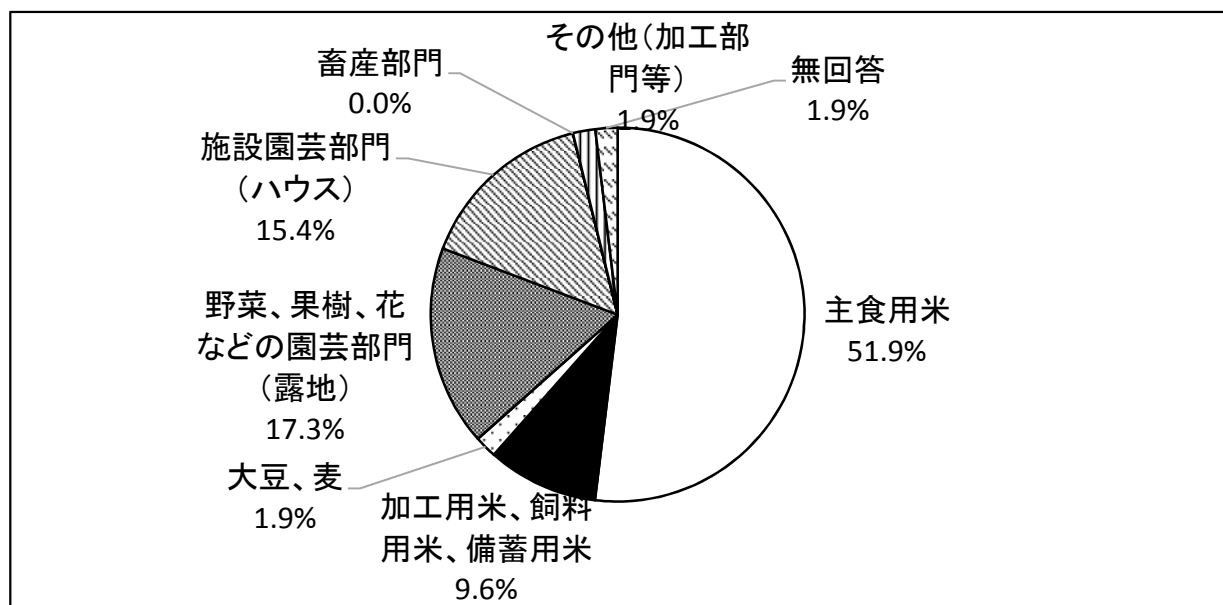
Q9-(4) 今後の米の生産や水田の活用についての意見

回答項目	回答数	割合
平成30年産米以降も、今と同じように市全体で減反を続けていくべき	101人	0.094
平成30年産米以降は、個人が自由に米の生産を行っていくべき	366人	0.341
今のところ、どちらともいえない	440人	0.410
その他	28人	0.026
無回答	139人	0.129



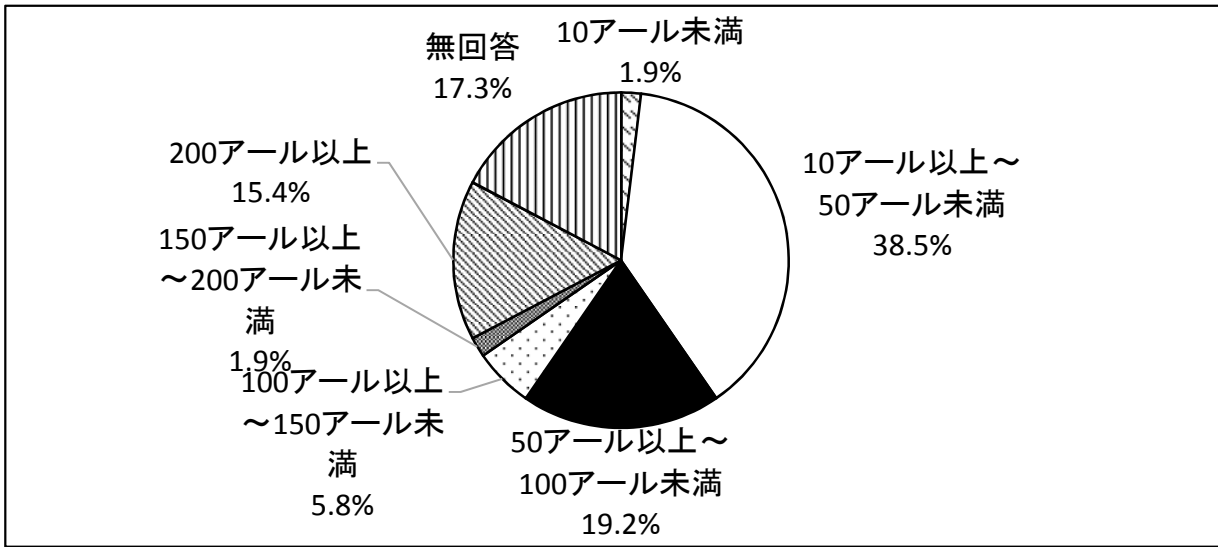
Q10-(1)-① Q9-(3)で②規模拡大したいを選択した人
今後どの農産物を拡大したいですか。

回答項目	回答数	割合
主食用米	27人	0.519
加工用米、飼料用米、備蓄用米	5人	0.096
大豆、麦	1人	0.019
野菜、果樹、花などの園芸部門（露地）	9人	0.173
施設園芸部門（ハウス）	8人	0.154
畜産部門	0人	0.000
その他（加工部門等）	1人	0.019
無回答	1人	0.019



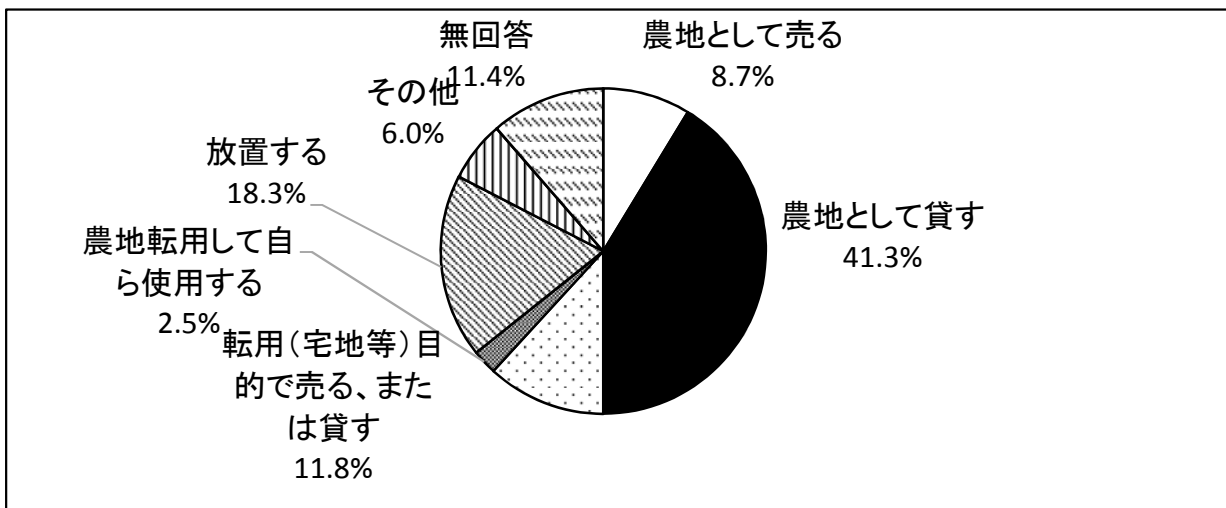
Q10-(1)-② 規模を拡大したいと考える農産物等の農地の規模はどれくらいですか。

項目	回答数	割合
10アール未満	1人	0.019
10アール以上～50アール未満	20人	0.385
50アール以上～100アール未満	10人	0.192
100アール以上～150アール未満	3人	0.058
150アール以上～200アール未満	1人	0.019
200アール以上	8人	0.154
無回答	9人	0.173



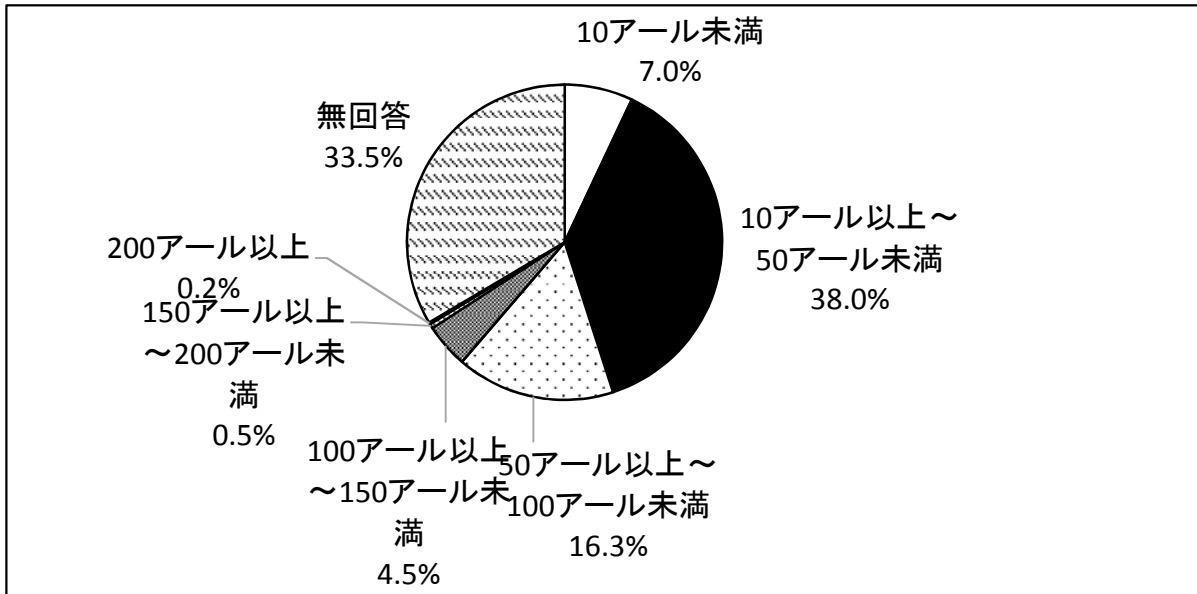
Q11(1)-① Q9-(3)で③規模縮小、または農業をやめたいを選択した人現在耕作している農地はどうされますか。

回答項目	回答数	割合
農地として売る	39人	0.088
農地として貸す	181人	0.419
転用(宅地等)目的で売る、または貸す	53人	0.120
農地転用して自ら使用する	10人	0.025
放置する	82人	0.186
その他	27人	0.061
無回答	51人	0.115



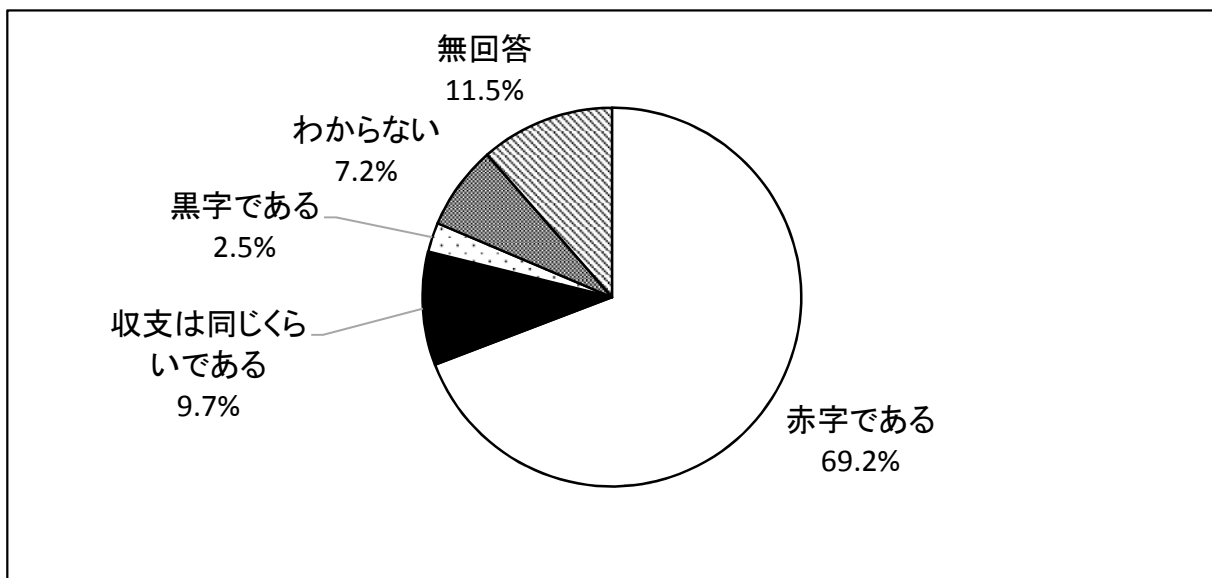
Q11-(1)-② 規模縮小、または農業をやめたいと考える農地の面積はどれくらいですか。

項目	回答数	割合
10アール未満	31人	0.070
10アール以上～50アール未満	168人	0.380
50アール以上～100アール未満	72人	0.163
100アール以上～150アール未満	20人	0.045
150アール以上～200アール未満	2人	0.005
200アール以上	1人	0.002
無回答	148人	0.335



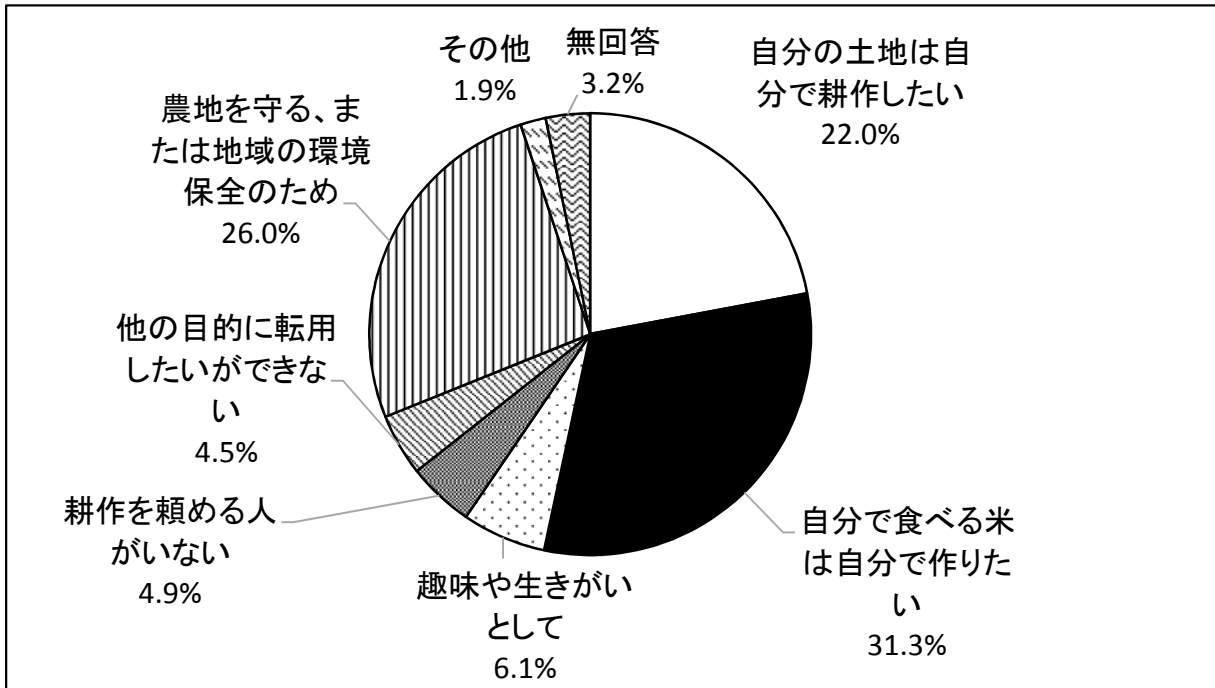
Q12-(1) あなたの家の農業収支はどうなっていますか。

回答項目	回答数	割合
赤字である	743人	0.877
収支は同じくらいである	104人	0.123
黒字である	27人	0.032
わからない	77人	0.091
無回答	123人	0.145



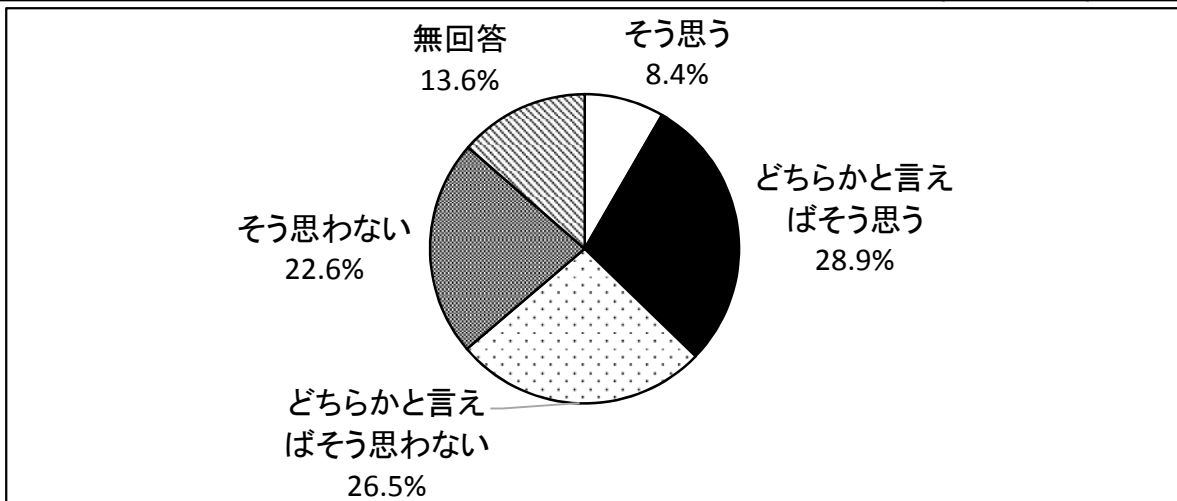
Q12-(2) (1)で①または②と答えた方
収支に関わらず自分で耕作する理由は何ですか。

回答項目	回答数	割合
自分の土地は自分で耕作したい	190人	0.224
自分で食べる米は自分で作りたい	270人	0.319
趣味や生きがいとして	53人	0.063
耕作を頼める人がいない	42人	0.050
他の目的に転用したいができない	39人	0.046
農地を守る、または地域の環境保全のため	224人	0.264
その他	16人	0.019
無回答	28人	0.033



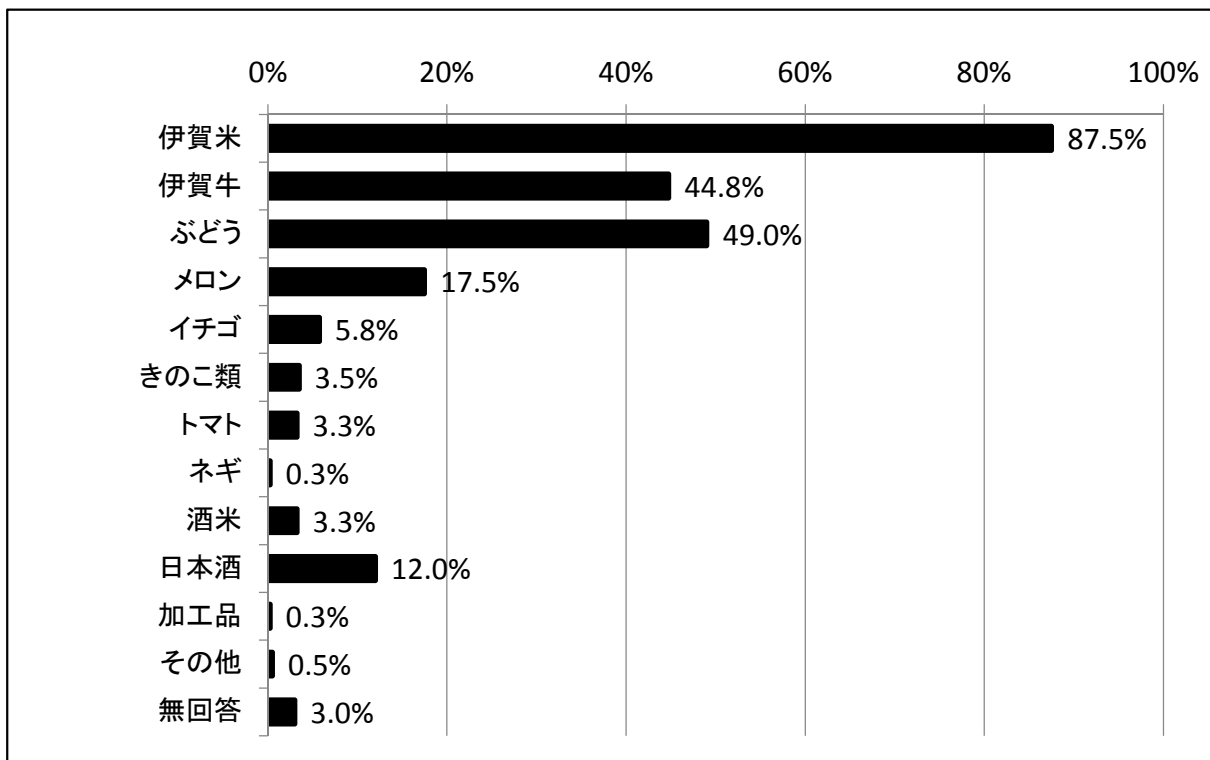
Q13-(1) あなたは、魅力ある名張市の特産物が販売されていると感じますか。

回答項目	回答数	割合
そう思う	90人	0.084
どちらかと言えばそう思う	310人	0.289
どちらかと言えばそう思わない	285人	0.265
そう思わない	243人	0.226
無回答	146人	0.136



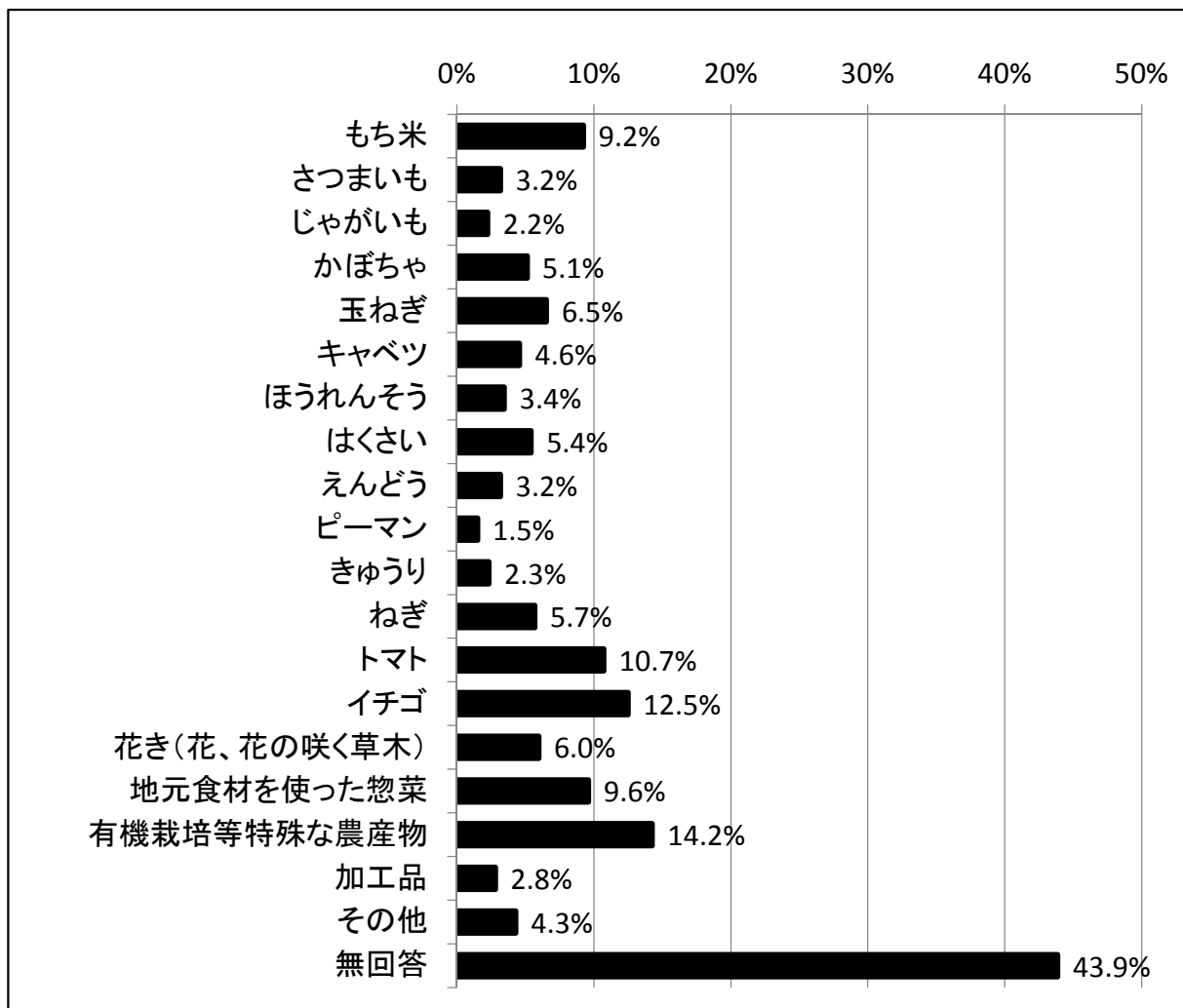
Q13-(2) (1)で①または②と答えた人
 あなたが思う、魅力のある名張市の特産物にはどのようなものがありますか。

回答項目	回答数	割合
伊賀米	350人	0.875
伊賀牛	179人	0.448
ぶどう	196人	0.490
メロン	70人	0.175
イチゴ	23人	0.058
きのこ類	14人	0.035
トマト	13人	0.033
ネギ	1人	0.003
酒米	13人	0.033
日本酒	48人	0.120
加工品	1人	0.003
その他	2人	0.005
無回答	12人	0.030



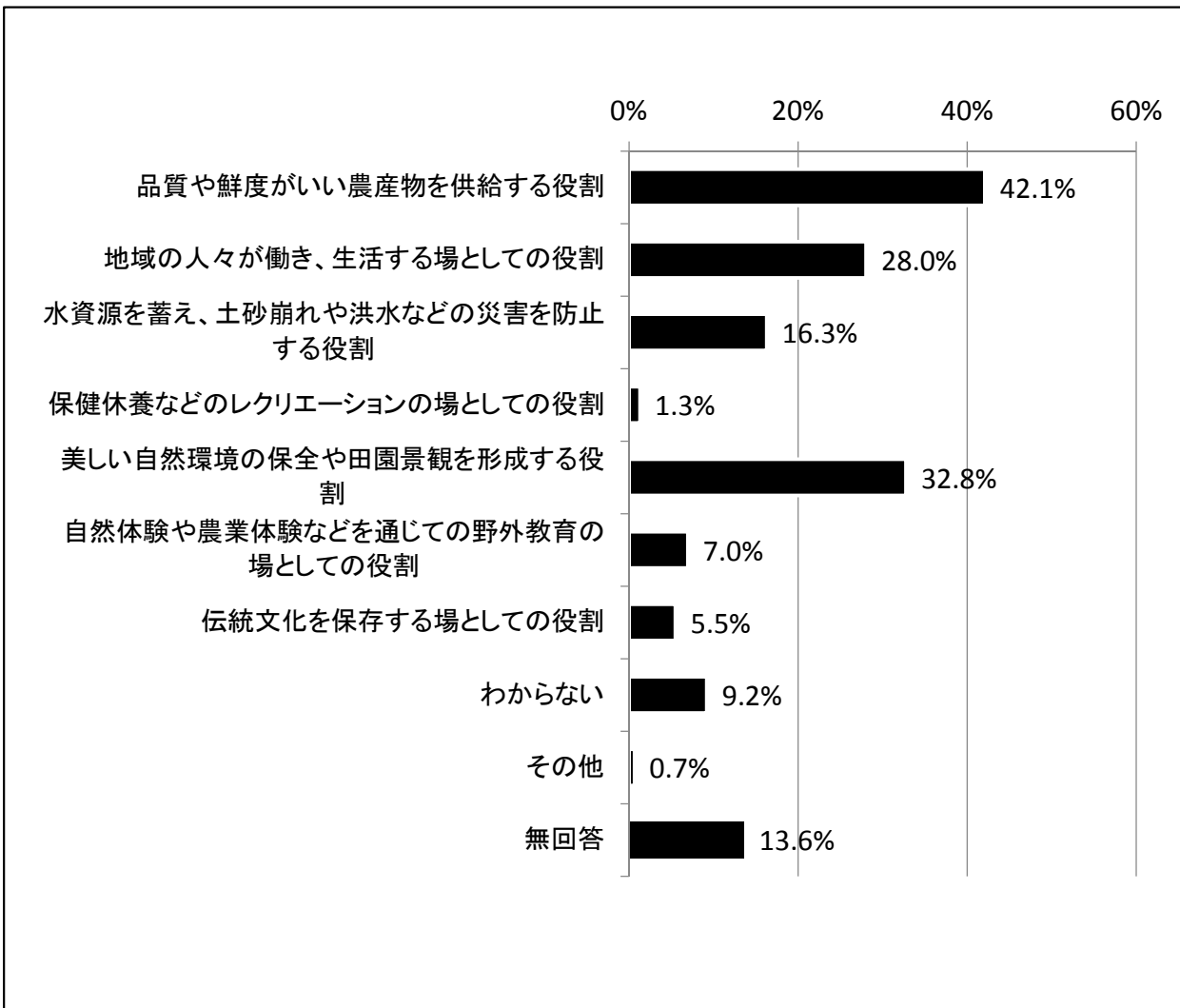
Q13-(3) 今後、新たな特産物として生産、商品化に力を入れたら
よいと思うものは何ですか。

回答項目	回答数	割合
もち米	99人	0.092
さつまいも	34人	0.032
じゃがいも	24人	0.022
かぼちゃ	55人	0.051
玉ねぎ	70人	0.065
キャベツ	49人	0.046
ほうれんそう	37人	0.034
はくさい	58人	0.054
えんどう	34人	0.032
ピーマン	16人	0.015
きゅうり	25人	0.023
ねぎ	61人	0.057
トマト	115人	0.107
イチゴ	134人	0.125
花き(花、花の咲く草木)	64人	0.060
地元食材を使った惣菜	103人	0.096
有機栽培等特殊な農産物	153人	0.142
加工品	30人	0.028
その他	46人	0.043
無回答	471人	0.439



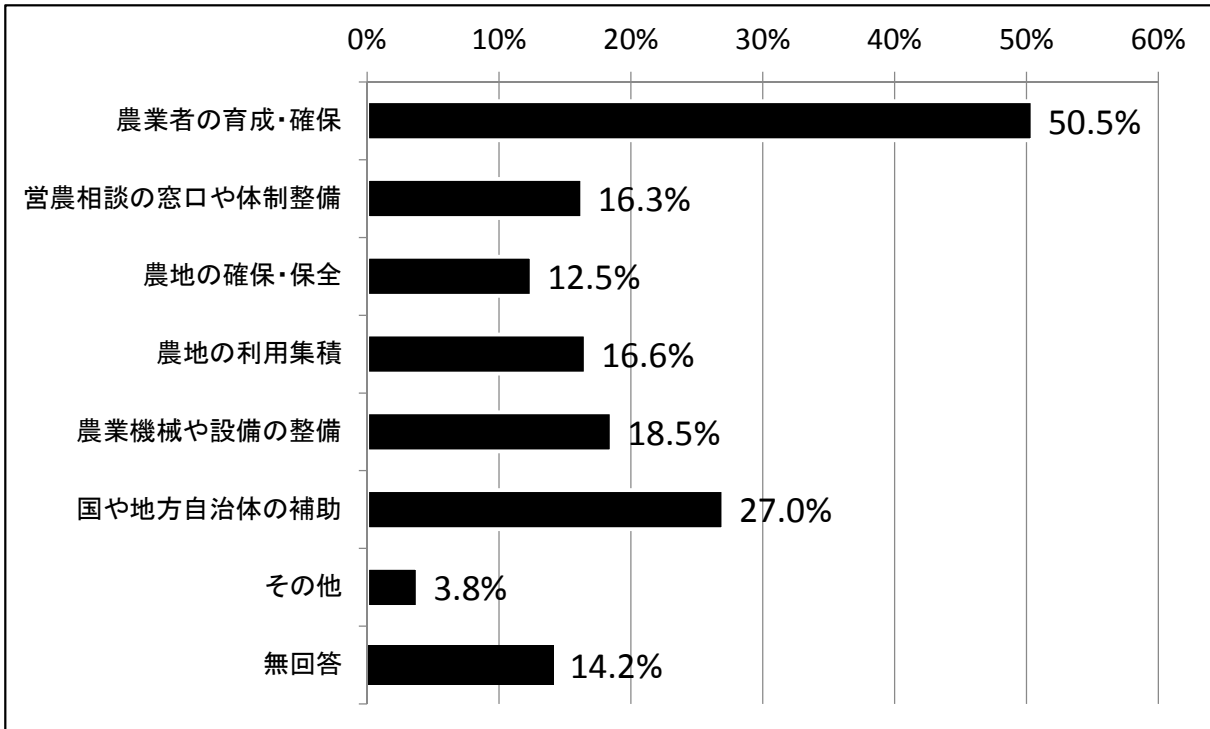
Q13-(4) あなたは、農業や農村が果たす役割として何が重要だと思いますか。

回答項目	回答数	割合
品質や鮮度がいい農産物を供給する役割	452人	0.421
地域の人々が働き、生活する場としての役割	301人	0.280
水資源を蓄え、土砂崩れや洪水などの災害を防止する役割	175人	0.163
保健休養などのレクリエーションの場としての役割	14人	0.013
美しい自然環境の保全や田園景観を形成する役割	352人	0.328
自然体験や農業体験などを通じての野外教育の場としての役割	75人	0.070
伝統文化を保存する場としての役割	59人	0.055
わからない	99人	0.092
その他	7人	0.007
無回答	146人	0.136



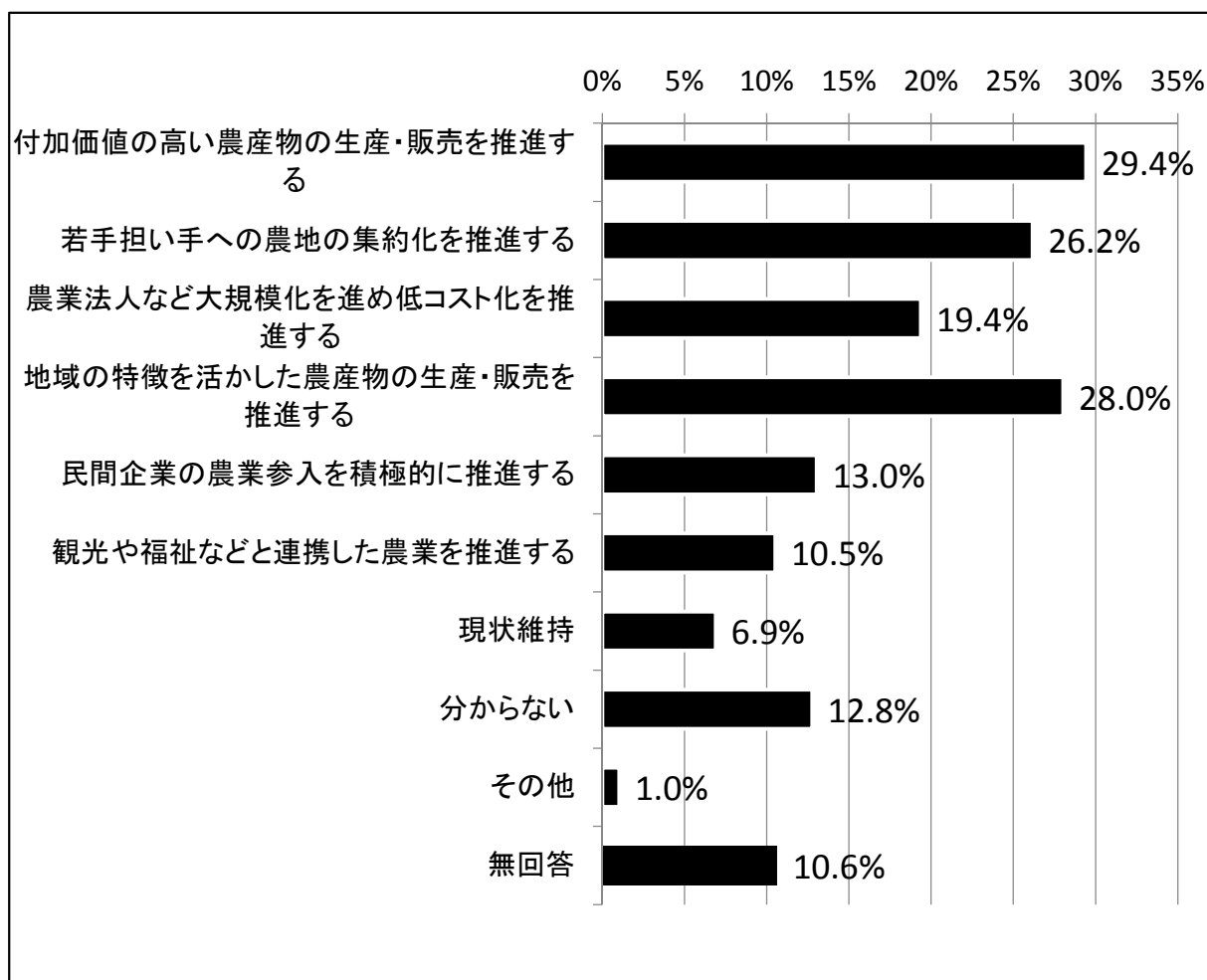
Q14-(1) あなたは、10年後も農業を続けていくとした場合、何が重要であると考えますか。

回答項目	回答数	割合
農業者の育成・確保	542人	0.505
営農相談の窓口や体制整備	175人	0.163
農地の確保・保全	134人	0.125
農地の利用集積	178人	0.166
農業機械や設備の整備	199人	0.185
国や地方自治体の補助	290人	0.270
その他	41人	0.038
無回答	152人	0.142



Q14-(2) あなたは、10年後の名張市の農業は、どのようにしたら良いとお考えですか。

回答項目	回答数	割合
付加価値の高い農産物の生産・販売を推進する	316人	0.294
若手担い手への農地の集約化を推進する	281人	0.262
農業法人など大規模化を進め低コスト化を推進する	208人	0.194
地域の特徴を活かした農産物の生産・販売を推進する	301人	0.280
民間企業の農業参入を積極的に推進する	140人	0.130
観光や福祉などと連携した農業を推進する	113人	0.105
現状維持	74人	0.069
分からない	137人	0.128
その他	11人	0.010
無回答	114人	0.106



Q 1 - (1)

あなたのお住まいはどこですか。

⑩その他

- ・つつじが丘
- ・伊賀市
- ・桔梗が丘
- ・大阪
- ・奈良
- ・桜井市
- ・梅が丘
- ・百合が丘
- ・埼玉
- ・滝之原
- ・松阪
- ・すずらん台
- ・京都

Q 1 - (3)

あなたの家族構成を教えてください。

⑤その他

- ・兄弟
- ・夫婦と叔母
- ・四世代世帯
- ・子

Q 4 - (1)

あなたが生産している作物はどれですか。

⑪その他

- ・ブルーベリー
- ・農産物加工品

- ・お茶
- ・家庭菜園
- ・赤ダテ
- ・タケノコ
- ・そば

Q 4 - (2)

あなたが生産している作物の主な出荷先はどこですか。

⑨その他

- ・観光
- ・知人に販売
- ・出荷なし
- ・個人販売
- ・野菜宅配業者
- ・商社
- ・親戚
- ・契約栽培
- ・青果市場
- ・Aコープ
- ・縁故米
- ・カフェレストラン経営
- ・米販売店

Q 6 - (2)

設問(1)で①あると答えた方
あなたが委託している農作業はどれですか。

⑥その他

- ・畦塗り
- ・育苗
- ・畦づくり

- ・ 稲の苗作り
- ・ 畦付け
- ・ 草刈
- ・ 育稲
- ・ 耕起以外すべて
- ・ 肥料散布
- ・ 運搬
- ・ 色彩選別

Q 7 - (2)

設問(1)で①受託していると答えた方
あなたが受託している農作業はどれですか。

⑥その他

- ・ 極小規模農家の手伝い
- ・ 畦塗り
- ・ 育苗
- ・ あぜ塗り
- ・ 育稲
- ・ 堆肥散布

Q 8 - (2) - ②

設問(1)で①あると答えた方
耕作を放棄することとなった主な理由は何ですか。

オ. その他

- ・ 病気で体力面に不安を抱えることになったため
- ・ 時間や設備がない
- ・ 米作りに魅力を感じない
- ・ 耕作効率が悪い

- ・ 水稻の必要性がなくなった為
- ・ 小さい面積で枚数が多い
- ・ 減反政策
- ・ 場所が分からない
- ・ 面積の小さい田で耕作が面倒
- ・ 周囲の木が茂り日照が悪く田にならなくなる
- ・ 大台風被害
- ・ 林地になっているため
- ・ 他の仕事（林業、不動産）をしたため
- ・ 農業従事者がいないため
- ・ 進入道路がなくなった
- ・ 作業が無理

Q 8 - (2) - ③

あなたは、その耕作放棄地を今後どのようにしたいと考えていますか。

オ. その他

- ・ 売却したい
- ・ 借り手があれば貸したいと考えているが売却したい
- ・ 野菜（かぼちゃ、山ぶき）を作りたい
- ・ 太陽光発電などに利用したい
- ・ たまに草刈りたい
- ・ 国で復旧してほしい
- ・ 現在水道屋さんに貸している
- ・ 湿田で水路等の不便の為
- ・ 植林している
- ・ 雑種地、宅地

Q 9 - (3)

あなたの家では今後の農業経営をどのようにしたいと考えていますか。

①現状のまま続けたい

オ. その他

- ・我が家で食べる野菜づくり
- ・自営のカフェレストランがあるため

②規模拡大をしたい

オ. その他

- ・隣接する耕地なら購入する。
- ・地域の農地を守りたい。
- ・退職後には労働力に余裕ができるから。

③規模縮小、または農業をやめたい

オ. その他

- ・現在の耕作地を 1/2 ぐらいに減らし、勤めながらできる範囲にしたい。
- ・元々農業をしたことがない。
- ・今はまだ仕事ができるから。
- ・担い手はいるが、大規模な農業はできない。
- ・野菜づくりはしたいと考える。
- ・家庭菜園程度にしたい。
- ・名張市市単で食糧事情を考えるべきではなかろうか。
- ・すべて負担。

Q 9 - (4)

平成30年産米から国の米政策が見直され、国からの米の生産数量目標の配分がされなくなり、米の直接支払交付金が廃止されます。このような中、今後の米の生産や水田の活用について、あなたのご意見を聞かせてください。

④その他

- ・水田は米作だけではない。防災の観点からも必要ということを考えなくてはならない。交付金の抛出を国の災害防止観点でとらえ、予算の編成を考えなければならない。
- ・米作りをやめる。
- ・小農業で交付金などがなくなると農民は「死ね」と言っているのと同じ。

- ・個人で販売するには無理がある。欲すれば米の販売価格が問題になる。採算が合う農業がいい。
- ・山間部（弱者）いじめ。米価ダウンにつながる。小規模農家は死ねということか。
- ・（株）米生産販売所を作る。
- ・米作にて治水を果たしている。国にて今後考えるべき。
- ・農機具に補助金を出す政策。
- ・国内に米が余っているというのに輸入して農家を困らすのはいかなものか。
- ・制度がよくわからない。
- ・水稻から他の農産物生産に対し助成強化。
- ・もっと耕作放棄地がふえる。
- ・減反は進むべきでない。
- ・減反廃止といっても荒地となっていて作付不可。
- ・交付金にかわるものは絶対必要。
- ・作らなくなったのでわからない。
- ・ほとんど貸し出している。
- ・食育問題として考えたい。超廉価な輸入農作物はみんなほしいと思う。
- ・国の政策に従っていたが、山林等の田で線引規制されているので他の用途に利用できない。線引を解除してほしい。
- ・米価を上げてほしい。
- ・大農家の意見を尊重してほしい。
- ・ワイン用のぶどうの植栽を考えている。
- ・自分や子供の食べる分は作りたい。

Q 1 1 - (1) - ①

Q 9 - (3) で③規模縮小、または農業をやめたいを選択した方現在、耕作している農地はどうされますか。

カ. その他

- ・自分で食べる米だけ作る。
- ・貸したいのだが借りてくれるような条件のよい田でないので放置せざるを得ない。
- ・土地の返却。
- ・分からない。
- ・権限がないので決めれない。
- ・果樹の畑を水田に戻す。
- ・作付はしないが、耕起する。

- ・自分のできる範囲に縮小。
- ・小作地は返す。
- ・どうにもならず困っている。
- ・家族で食べる分だけにしたい。
- ・一部のみ耕作し、借り手があれば耕作してほしい。
- ・自分の体力が続くまで耕作する。
- ・相続放棄

Q 1 2 - (2)

前の設問で①赤字または②収支は同じくらいと答えた方
収支に関わらず自分で耕作する理由は何ですか。

⑦その他

- ・将来に備えての身の丈に応じた設備投資を続けているため。
- ・本年度より野菜を主に黒字にしたい。
- ・委託している。
- ・無償貸与。
- ・義務の様なもの。
- ・農機具があるから。
- ・草刈り程度。
- ・家の近くにあるため。
- ・自営のカフェレストランがあるため。
- ・自分の代で荒地にしたくない。
- ・処分したいが、法律で無理なため手放したい。

Q 1 3 - (2)

前の設問で①または②と答えた方
あなたが思う魅力のある名張市の特産物にはどのようなものがありますか。

⑪加工品

- ・梅干し

⑫その他

- ・ナバナ

Q13- (3)

今後新たな特産物として生産、商品化に力を入れたらよいと思うものは何ですか。

⑱加工品

- ・日本酒
- ・梅干し
- ・柚子の加工品
- ・きのこドレッシング
- ・落花生
- ・カット野菜
- ・ぶどう、いちご等のジャム
- ・こんにやく
- ・安心を与える6次化
- ・ソバ
- ・ゴマ
- ・トマトジュース
- ・伊賀肉と組み合わせた加工品
- ・ワイン
- ・普遍性のある生産品
- ・漬物
- ・米パン
- ・お茶
- ・山ぶどう
- ・梨
- ・もち米加工品、伊賀米加工品
- ・販売で残ったぶどうのジャム、干しぶどう、ゼリーなど

⑲その他

- ・いちじく
- ・エゴマ (エゴマを栽培し、エゴマ油を作る。エゴマは獣害を受けないらしい)
- ・きのこ類
- ・酒米
- ・ケール
- ・伊賀米みそ

- ・みょうが
- ・ゴマ
- ・薬草
- ・麦を活用したもの
- ・綿花
- ・なばな
- ・アイSprラント
- ・こんにゃく芋
- ・レタス
- ・にんにく
- ・スイカ
- ・機能性農作物
- ・もも
- ・梨
- ・柿
- ・青パパイヤ
- ・竹の子
- ・地元食材を使った食事処。
- ・白菜
- ・わさび
- ・獣害等に強い作物で、地域一円が転作田等に植栽していく作物（例えば、ゆず、山椒、南天〈花卉用〉）を構築できれば、と思う。栽培啓蒙に当たっては、市等が種子・苗木代等の助成を検討して頂ければ。
- ・みかん
- ・アーモンド
- ・ブロッコリー
- ・温室（ハウス）での周年野菜
- ・核家族が多くなっている為、炊事しなくてもよいものの直接販売。

Q13－（4）

あなたは、農業や農村が果たす役割として何が重要だと思いますか。（2つ）

⑨その他

- ・将来期待できない。
- ・クラインガルテン（市民農園）

- ・健康維持
- ・土地利用
- ・画一的に振興地でくくるべきではない。

Q 1 4 - (1)

あなたは、10年後も農業を続けていくとした場合、何が重要であると考えますか。

⑦その他

- ・作物の価格。今は安いので収支が合わない。
- ・獣害対策
- ・収入
- ・地域の育成
- ・農業の収益性
- ・作業に見合う収入が得られるように国の行政を整えなければならない。
- ・収益モデルの開発
- ・イノシシ、鹿等の対策
- ・新しい特産物の商品化
- ・情報整備（インターネットやコンピューター、タブレットを利用したリアルタイム農業）
四国のどこかでやっている高齢者がいきる糧を得られる市づくり。
- ・自然にまかす
- ・販売方法
- ・農産物価格の上昇
- ・所有者の考えが第一
- ・低コストで付加価値の高い生産
- ・JA の努力
- ・採算がとれること
- ・しんぼう
- ・意欲、必然性
- ・現状環境維持
- ・元気な体
- ・法人化
- ・野菜、果物等の大規模な直売所開設
- ・わからない
- ・利益

- ・水
- ・農業を続けるための資産がない。(機械を買うためのお金)
- ・農機具、農薬、肥料の値下げ
- ・農業地域と非農地に分離
- ・農業に興味を持つ人たちが多くいる。このニーズをいかにつかむかが問題。
- ・販売価格の見直し

Q 1 4 - (2)

あなたは、10年後の名張市の農業は、どのようにしたらいいとお考えですか。

⑨その他

- ・農協を中心とした農業法人による農産物の生産と販売を推進する。
- ・農家の為に運営する第2のJAの設立。
- ・過疎地対策
- ・農地一軒当たり大規模。
- ・農地活用のハードルを下げる。
- ・名張市で生産した作物は名張市で消費できるシステム作り。
- ・小さな農家も活躍できるといいと思う。
- ・高齢、小規模農地は維持できない。
- ・儲かる農業にすること。
- ・農業基盤の整備に向けた行政の支援
 - ①用排水路の維持又は回収予算の確保
 - ②獣害対策(わな狩猟免許取得)の充実

Q 1 5 自由回答

- ・退職したら、減反をやめ、ネット販売などを使い作れるだけ作ろうと考えている。というふうに個人個人の考えを尊重してほしい。
- ・なんか設問のところへ変なことを書いたが、要するに土地(国土)は農地並びにそれに順じて維持してゆかねばならないと考える上で、農業をしている人はあまり専門的な全般的な活用方法を持ち合わせていないので、行政なり、JA等が牽引車となり双方が利益をもたらすものであると考えると税も入る、利益も上がりよいと思う。
- ・農業の大規模化に協力したい。自分の農地を提供したいと思っているが、安心して農地

を提供できる受け皿があまりにも心許ないように思われます。農協などが中心となって受け皿を作れるような制度ができないかと考えますがいかがでしょうか（他企業による農業事業などありますが、私としてはどうしても信用できません）。農業を知りつくした農協のこれまで蓄えた経験と知恵を活用することができればと思いますが、無理なんでしょうか。

- ・動物の対策、特に鹿、サル等。作物等が荒らされるので大変迷惑している。薬があればバラ撒きたいと思う。
- ・行政として今の名張市の農業現状を理解し、今後の農業のあり方を推進すべきである。
 - ①若い農業者の育成がままならないので（高齢化している）
 - ②農業の集約化を早く進めるべきだ（法人化）
市が積極的に進めるべきである（農地が不耕作、荒れ地になる）
- ・名張市が農業振興についてどうゆう施策を行っているか分からないので広報等で知らせしてほしい。
- ・獣害がひどく耕作を放棄せざる負えない状況である。宇陀川の竹林のそばのイノシシ・鹿などネットを張っても入られる。
- ・農地法を改定し集積をはかるとともに、荒廃地を利用した文化・教養施設の建設をしてほしい。すべて農地法が災いしている。
- ・農地の集約は個人では情報収集ができない。近隣に借り手が表れても他地区の人が借りてしまい、農地の虫食い化になっている。情報収集、情報発信は行政でおこなってほしい。
- ・やる気なし
- ・JAは金融不動産部門を分離農業指導専門団体とする。小規模農地は集約し果実等の栽培にする。比較的まとまった農地は集約し米作を主体とする。上記を農業法人等により運営する（法人を特別優遇する）零細規模農家は趣味であり振興対策にふくめない。
- ・市と農業が一体となり老人でも田を管理できる体制づくりを行ってほしい。農協がもっと委託し受けてもらえるようすべきだ。農業委員会がただで持ち主が小作に出す様な現況は固定資産税も払えないのはどうか。
- ・地産地消のシステムを考える。
- ・農業振興について余り熱が入っていない様に思える。
- ・農業振興地域の見直し、耕作していない農地の活用を積極的に推進すること。
- ・補助事業を積極的に使えるように、市や県等が農業者に直接すすめサポートしていく。名張というブランドではダメ。伊賀という名のブランドを全面に出す。
- ・名張市も伊賀市のモクモクファームみたいなのを作ったらいいと思います。
- ・米を食することの長所、大切さを小中学生の子どもに教え朝食をとることが普通の生活であることを伝えたいと思う。
- ・農業関係機具の価格が高すぎるのに、米価が上がらない。

- ・条件の悪い土地は担い手がいなくなると荒れていくのを止めることはできません。振興とは遠いところでの悩みを抱えているのが現状です。どうすればよいのでしょうか。
- ・災害、老朽化の農地の復元化を市に相談しても、資金がない、予算がないとのことで片付けられ、振興どころか名張市の農業は後退でしかない。
- ・農業は農家より保護をしているように思える。農家は自由に作物をつくり自由に販売が出来、収入が上がれば良いと思う。
- ・私も 75 歳ですもう 10 年もすると私の村も農業をする人がほとんどいなくなるように思う。若い担い手の確保収入の確保をできるようにと思う。
- ・ブランド力のあるものを作り生産して利益の上がるものを作る努力をする。
- ・田畑山林の被害が年々増加しています。猿鹿イノシシの捕殺防除に力を入れて欲しいと思います。この春に市役所へ電気柵で相談に乗っていただきましたが規制枠が多くて補助対象から外れました。観光農業の発展（赤目四十八滝）としての土産物の産出に力を入れてほしい。
- ・農産物の販売について、もう少し農業者の目に見えるように情報共有すれば生産意欲も上がってくるのではないかと。
- ・国等の補助を受け耕地整理した農地を簡単に他の用途に転用許可している。名張市の農業振興に真剣に取り組んでいるとは思えない。
- ・農業すればするほど赤字、どうしたらいいのかわからない。獣害の対策として具体策や計画を公表してほしい。
- ・伊賀米をブランド化し、販路を開拓するのはどうか。新田は今からでも圃場整備をしても企業が参入できるようにしたらいいと思う。水田は環境保全など効果絶大だから維持した方がいい。農家任せではなく、対策が必要。結束し、新しい取り組みが必要だと思います。
- ・地域の活性化のために営農集団化をはかり、地域の人々に農作業に参加してもらうシステム化をして賃金も支払できるようにしていく集団づくりをして行くといいと思う。
- ・他から大規模耕作者が来て管理しない。地元の農業従事者が用排水路の補修をしている。規模拡大農家を厚遇して地元の農家の有志らが自ら進んで優良農地の保全、用排水路補修に取り組んでいる地区には冷たい。
- ・しっかりとした戦略を構築し重点的な取り組みを行う。
- ・農業法人を設立して農地を一元的に管理し管理費除いて利益があれば提供農家に配当する。
- ・農業が減っていくことが心配です。
- ・農業振興地域に該当するため畑の有効活用ができない。例：ソーラー等
- ・中山間地域で農地保全、営農を維持していくための支援策の充実を望む。
- ・高齢化、担い手不足を心配している。市の農業振興地整備計画により農用地域として指定されているため身動きが取れなくて困っている。私だけでなく多くのものが困って

いる現状があり急ぎ市の計画の見直しをお願いしたい。抜本的に見直し自由に転用、活用できるようをお願いしたい。

- ・業種より収入減（赤字）が農業をやめる第一の原因と思う。米の場合 18,000 円/60 k g 以上で販売できること。
- ・高齢化で荒れた田が多くなった。農業だけでも食べていけるように法人化して若い人が働きやすい場ができればと思っています。
- ・名張市の水田では競争力ある米作りは難しい。一枚の水田面積を小さく。草刈の手間がかかりすぎ。また、水利が十分とは言えない。生産者の自由にならない。
- ・農地が住宅地の近くであり、赤字なのを仕方なしに続ける仕事です。農作業、農機具も老化し、人間も老化の一途です。農協の協力も資金の高さが悩めるところです。
- ・農地、地域の景観と国土の保全に努められるよう、国、地方自治体の支援が必要。
- ・名張市の特産物をつくろうとしても市独自では面積も少ないので隣の伊賀市とでも連携をとり、例えば統一の伊賀米のようなものにして育てていく方が良いと考える。（数量等の問題）
- ・行政は JA と連携をとり、どの様な作物（野菜）を作ればどのくらい収入が上がるのか、こまかな指針をつくって欲しい。
- ・農業は大事だが、安易な気持ちで新規参入するのはどうかと思う（そんなに甘くないから）。
- ・問題は JA、市など、作った方がいいが販売ルートをしっかりしておかないと長い目で見てうまくいかないと思う。
- ・農産物専門の先生が必要です。管理保全をすること。草刈りをする。獣害。
- ・営農指導ができる人材を育てる。
- ・山間地では田の耕作はむり。
- ・農業機械が高価で維持費が大変。安価でレンタルできたらすばらしい。生産物の高価買取で生計が立てれば離れていく人も少ない。
- ・一人暮らしなのでわかりません。
- ・農業用水の水源の確保と水源地給水路網の公的機関での把握（開発時の図面の永久保存）農業用ため池等の転用禁止の施策。
- ・農業が不採算であることが不振の大きな要因。収穫が不安定でも農機等に多額の経費が必要で小規模農家は存続が自然と無理。コストパフォーマンスが悪く、休日確保も難しいのが現状。
- ・名張の農業について将来山間部ではあまり期待できないが平野部では発展の余地は多々あると思う。ぶどう、イチゴなどは市外からの需要も多少あるようで将来が明るい。また一部の方で施設園芸でかなりの収益をもたらしている方もあり葱、花きでの成功例もあるようですがこういったところにも推進をはかられたらいいのではないかと思います。

- ・収支赤字をどのようにして改善すればよいのか今の時代に農業が成り立っていくにはこの課題の解決が最重要です。
- ・行政や農協の人員配置からみてサラリーマン化しているように思います。農業の専門家や関心の高い人員配置からスタート（やり直し）してはどうか。
- ・他の市の政策と比較して少し弱いと感じる。
- ・農地の賃借状況について、農家に現在も 20 a 貸しているが将来 30 a 貸したい。非農家に現在 20 a 貸しているが将来非農家に 30 a 貸したい。
- ・施設園の拡大と若人が最低必要な生活収入の確保
- ・人口が減っているのに、2～5年先どうするのか。
- ・農業振興の行っている内容が伝わってこない。
- ・小規模農家においては、特に今後、後継者不足の問題が深刻である。農協等が窓口となつて相談に応じる手立てが早急に必要である。
- ・高齢化が進む中で農地保全の為、獣害対策のさらなる強化が必要。
- ・クライנגルテンのような施設の整備（市、JA主体）都市部住民の週末菜園は住宅や都市部からの移住者の積極的誘致。「便利な名張の田舎暮らし」の推進。
- ・強力なブランド米を作る。ブランド戦略を図る。
- ・JAを中心とした生産と販売を強化する
- ・行政（県、市）の指導員とJAの指導員にてもっと農業（水稻、果樹）の専門家と思う。人材を確保してほしい。
- ・米が安いので困ります。
- ・赤目滝ブランドをもっと活用
- ・コシヒカリの代わる新ブランドを開発する。付加価値の高い農産物の生産技術を指導してください。
- ・某農業法人の進出が目立つが農地の管理が雑になって困る。（草刈り、排水の掃除がやれていない）
- ・「人の基は農に有り」と思っている。したがって政府がTPPをはじめ農業そのものをどのように考えているのか理解できない。もって農を重視し真剣に取り組んでほしいと願う。
- ・先祖から与えられた土地（農地）をどう活用、維持管理していこうかと日々苦戦している現状にあります。農業の振興にはほど遠い所にあります。
- ・伊賀コシヒカリのブランド化の強力な推進（AA評価の割に価格が安い）
- ・60歳以上の自由時間を働きやすい農業の仕事に活用。法人または民間企業にて管理と運営。
- ・山林気候の特性を活かせ、米生産農家として食味コンテストとかのイベントを希望。
- ・5反未満の農業では農機具の購入や修理等に係る費用はコメの金額に有っていないような状態です。又、人にやってもらおうと支払金額が大きく何もやらないのが一番よいので

はないかと思っています。ただ健康の為にそして昔より田を受けた責任として働ける間はやっていこうと思っています。

- ・各地域に共にできる共同体（作業ドーム等）を作り作業できる人だけで田畑を耕作していく。
- ・小規模農家のことも考慮した市政を望みます。
- ・農業で生活できる政策
- ・家庭菜園したい人が市場でできるように協力してあげたらいいと思います。
- ・①山間部または未整備農地について法規制を緩和して若い人への農業参入と促進して地域を活性化するように行政より支援するようにお願いしたい。②耕地整備されたのうちについて規模拡大を図り生産コストの向上を支援すること。③小規模農家についても地域活性化のためには大切であると思うので行政支援が重要であると思う。
- ・耕作放棄しても起こらないで放棄させて、検校農家の場合別の仕事をしているため草刈りや土地維持のための時間がとりにくく土地管理が行えない。・山間部や小規模の農地の土地転用の簡潔化。
- ・他の用途で使いたい。名張市内で農業経営されている方はほとんど赤字経営だともいます。農地の保全の為に農業をされています。名張市各地で組合を作り数名の担い手を育成して各地で規模拡大してくれるような方。
- ・今回の農業に関するアンケートでは将来の農業振興には役立たない。もっと農家に出向き広くたくさん意見を聞き現場をみてほしい。デスクワークだけでは解決できない。
- ・JAを中心とした大規模な企業（業者）を支援又は連携し、また、それが各若者が農業に目を向ける手助けになれば活性化するのは。
- ・各地域、各店舗で直売があるが一つにまとめられないか。名張で生産したものを名張で消費する意味でやってもらいたい。小学校の廃校利用で考えてもらいたい。
- ・小規模農業も大切にして（各家庭が今までどおり）やっていけるよう支援してほしい。法人化、集団営農の人達も地域の状況にあわせて草刈り等もこまめにしてほしい。他人に迷惑をかけないよう指導してほしい。機械のリース化で購入費の軽減を図る。（4戸～5戸の農家で）
- ・JA伊賀南部が設立を進めている農業法人伊賀南部アグリ（仮称）を計画通り4月1日に設立するよう全力で取り組んでほしい。
- ・この法人に期待している。市も全面的にバックアップしてほしい。
- ・本当は家で食べる米、野菜は自分で作りたい。作る気持ちはあっても病気になればできない。せつかく作っても野生動物にやられる。一番悪いのはサル、イノシシ、シカ。私のところの村を見てもらったらわかると思う。若い者も農業をしないと思う。
- ・農業職人の経験を発表、講習できる場、機会が必要だと思います。
- ・現在、環境を破壊する農地があるが、どうしても地権者との合意ができず解決できない状況にある。今後は所有者の考えによると思う。

- ・名張市農林担当課及びJA伊賀南部が主体となり、名張市特産物を選定し、積極的に生産を推進する。
- ・農業というのは気候気候に支配される例外にハウスがあるが春→秋この間に作るものは作るしかない。冬季においては作物はできないのである。
- ・獣害対策補助がなく、山間部では農業が出来ない。
- ・国の農業振興の政策については間違った方向に進んできたと思われま。農家はせつせと圃場を改良させて現在の美田を作り上げてきたが米価の急速な下落と肥料及び農菜の高値により原価・機械の高値が影響して後継者は給料とりに変更し我が地区でも40戸あまりの農家は4~5人に萎縮している現在です。国がとってきた減反政策は・農に拍車をかけ補助金も少なく現在の企業郵船が力を入れる現状です。TPPによりますます農産物の下落することは必死であり大型農業を推進するも年金の老化はとめようがない。名張市も農地に企業を誘致してはどうですか。
- ・明日の名張の農を展望してほしい。
- ・名張市政の農業関連組織の職員移動が多い。プロの職員をそだてるべき。
- ・付加価値の高い農産物や地域の特徴をいかした農産物の生産をするためJAをはじめ県の農業普及センターや市が積極的に指導・助言をしてくださることをお願いします。
- ・鳥獣被害対策に力を入れて欲しい。現在土地改良区にお金を支払っていますが現在耕作していないのになぜしはらわなければならないのか理解できません。農地を農業以外のことや人に売れるようにしていかないと荒廃地増えると思います。
- ・獣害対策が整っていかない限り農業を担っていくことに不安を感じ後継者は育たない。田畑の所有者に一方向的に任せることは経済的に負担が大きすぎる。必ず何か一つでも意見を反映させてもらいたい。
- ・農機具類リース化の検討して頂きたい。特に田植機は1年に数時間使用するだけで無駄であり協議会の善処を待ちます。
- ・猪、猿、鹿等の被害が多くなっている。ぜひ対策をとってほしい。相当の損失です。それを理由に辞めていく人も多い。
- ・地産地消のシステムを考える推進。
- ・名張市も他地域と同様、農業従事者の高齢化に伴い保全管理地や放棄地の拡大が広がっています。今後農協を考えたとき若い人材の確保を生活できる収入を保つ為にも農業支援、国の・特区などの取組が重要だと思います。
- ・避地にももっと目を向けてほしい。
- ・名張市では農業の大規模化は困難と思われる。特徴ある作物の生産を考えるべき。
- ・現在世界の農産物は各地にあふれている。そのためか農業に対する必要性について理解がとぼしい。近い将来農業日本が潰れるのではと心配です。(農業教育など若い人を育てなければ)早く農地を守る対策を国家として考えて頂ければと思います。
- ・大胆な農業改革 都市計画が統一されていないので農地転用させすぎ。転用させるため

に圃場整備させたのか？ 農業地域は農道も指導も老朽化します。農業振興との前に農村生活環境お再度見直す市長が県土連の会長でしょ？もう少し NN に力を入れるべきではないのか？

- ・ ①企業の農業 ②集団化 ③収益性のあるものを生産する
- ・ 田の耕地整備や水不足の解消にもっと耳を傾けて欲しい。
- ・ 鹿の被害が今後広範囲となり、機械力に頼らない対策を農家が行っていかなければならないと思う。
- ・ 動物被害についての相談対応や市からも援助金制度要望。土地があっても作る人が高齢化する。若い人たちは嫌で地方へ。妙味のある地方の方が、自然のありがたさを感じ地元との交流も兼ねて田畑をまもっていってくれる。そんな窓口を市で作りあげ、古民家だけでなく、田畑の貸借もできるようにする企画はどうですか？（その持ち主と相談しあう時も、市や JA の方も一緒にいて契約することが大事）いつまでも若くないとはわかっている。草刈でさえ、体の重さ感じる。シルバーの仕事ではないが、田畑守るにも時間とお金は必要。楽はできぬが、無理ないことを考えてほしい。
- ・ 下比奈知の農地は高齢化、鳥獣被害、利水面でほとんど耕作をやめて荒れています。ですが、田以外の目的では売ってはダメだということらしい。じゃあ、名張市は何か利用できないか考えてくださいよ。太陽光？また書きましたが、これならお金もらって草刈りしなくていいんじゃないか…。思い付きですが、市が草刈りした草を何かに利用するとか？
- ・ 農地転用を下流、周辺の同意なしに農業委員会、市は安易に認めている。特に不動産関係、建設関係業者の言いなりになって迷惑している。ゴリ押し合法論に敢然と対応すべし。
- ・ 鳥獣被害に悩まされている。（特にイノシシ、シカ）
- ・ 農業振興地であることからということで農業以外は「絶対ダメ」の考え方では農地の放棄が加速するばかりである。地番によっては他産業からの進出も考慮すべきである。かたくなに農業以外はダメ（30～40年前）の考え方にメスを入れるべき時期にきている。
- ・ 手遅れ感が否めない。
- ・ 荒廃地解消と農業者の意欲を高めるための政策が必要。若手農業者の育成が必要（各地の町づくり委員会等に若手農業者の参画意見を吸い上げる。農業の先輩は主導体制から見守り補助の役割に徹する。
- ・ 米価が上がらないのであれば農器具をかって続けることはできない。（1町未満ならなおさら）民間企業の参入を積極的に推進し農地の保全をおこなわないといけない。
- ・ 外国人観光客にも開放された体験型のプログラムと受け入れ施設がほしい。
- ・ 休耕地を貸したい人に、借りたい人を仲介するシステムがあればいいが。
- ・ どのような夢の計画をしても、次の時代の農村では設備、機械購入の資金はないと思う。特に名張市は県内でも農地は山間部に多く、細少であり今後さらに放棄地が増える

思う。

- ・ 少子高齢化で子どもが減ってきているが、このままではダメになるのは明らかだ。
- ・ 獣害防護ネットを張らなければならない地域が増えてきている。環境変化・動物の生態変化かどうかわかりませんが、対策の強化を願います。ほ場整備した一等農地での耕作放棄、減反地が増えているのは国の農業施策、市のまちづくりのあり方が誤っているのではないか。
- ・ 農業従事者（特に米作）の高齢化が進む中、これから10年先今よりずっと離農が進むことになる。農村の環境保全、食糧の確保の点からも若手担い手の育成が早急に望まれる。名張市として現実を受け止め、早急に対策を講じられたい。
- ・ ○生産コストを下げる面からの希望事項
農業者の軽油税免除制度があるが、現在の申請方法では手間がかかりすぎ手続きに行かない。もっと簡素化してもらいたい。毎年申請も無駄。一度の申請で後はチェックを強化し、不正な人には以後免税されないようにすればよいのでは。本件申請時に農業委員会発行の耕作証明書を提出するが、これも現状と合致しない。今回提出する水田面積申告書でよいのでは。
- ・ 現状からいうと、耕作放棄地は増える、しかし担い手がいない。その理由は農業はしんどい、収入が少ない、高齢で夫婦だけではできない等。「高齢でできない」は夫婦だけではできないが、これまで農業を営み、体は元気で農業ができないわけではない。解決策としては、高齢者が働ける組織を作る、高齢者でも収入が得られるようにする、少人数ではできないことでも組織化することで広い耕地を扱うことが可能となる。収穫物の販路としては、販路先は主にJAさんになるのか、或は名張付近の165号線沿いに店舗を作る。赤目滝等の観光地に来訪者を増やすためにも、「おいしい、めずらしい、おもしろい」等と思われる目玉商品を考える。「高齢者がいきいきしている」、「景色、空気、水のきれいなところで作られた農作物がある」等アピールできないか。店舗を作った場合は高齢者も雇用し、男性も女性も元気な者は働く。すべての従業員の教育はきちんとする。組織化することが最優先。
- ・ 耕作放棄地の都市部住民への宣伝と休日農業を促すための広報活動。
- ・ 付加価値の高い農産物を首都圏や海外へPR販売してほしい。
- ・ 伊賀米、伊賀牛などの伊賀というブランド名は消費者にどのように理解されているのでしょうか。名張地方で生産されたこれらも伊賀ブランドですが、地元の人々だけが知っているだけではないでしょうか。ブランド商品を増産し、付加価値を得ているこれらを付加価値の商品価格で販売する流通システムを再構築する必要があると考えます。生産量が増し価格も高値（安定）となれば意識も変わり地域すべてが向上し振興と考えます。
- ・ 高齢化が進み、農地を守っていくのが限界にきている。線引規制を早く外してほしい。他のことに利用する農地もあれば今の若者は農業で生活できると思っていない。アン

ケートを出しているが若者の意見（30代～50代）を聞くことが大事。

- ・10年後はどうか不安。現状維持できていれば最高だと思う。
- ・自然の流れに身を委ねるしかないような気がします。が、頑張ってくださいっている農家の方々もたくさんおられるので応援したいと思います。
- ・安全でおいしい作物を適正規模で提供できるといい。温室温暖化→恒温化→コスト下げ
集約化、省力化、差別化、他業種連携、多様化、個別化、平準化、集中化、適正化、資金、保存、加工、宣伝、他地域連携、工業化、調香、調味、短期鮮度保持、世界市場、農の工業化、漁業の陸上化、長期保存、熟成、完全養殖、米、肉、漬物、果物、災害対策→水害にあわない、風雪害、地震→壊れない、気温湿度→変わりにくい、病害→隔離
- ・現状維持。
- ・農作物そのものよりも、設備の維持、管理などにかかる経費に関しての補助の拡充をお願いできたらありがたい。
- ・大集約をすべき。蔵持地区（里地区）約2haを大企業に貸付け（農地用）
- ・安全食品（生産者の顔が見える）のニーズが高まる中、米・野菜・牛肉など市内でとれた物を市民が食する運動が展開できたらと思う。その結果、家族農業の継続率が高まり、美しい自然環境・田園都市の維持と共生を重んじる集落の維持存続率が高まるのではないか。
- ・政治の力で農業を守っていただきたい。
- ・私自身、10年後には高齢で息子も農業をやる気がないような状況である。比奈地地域の現状として65歳～70歳代の方が農業経営をしている状態なので10年後の農業振興について心配。
- ・若い担い手への農業の指導をお願いします。
- ・大規模化を促進し、低コスト化を図る一方、人数の多い小規模農家が生きがいを持ちそれなりの収入が得られるようなことでないと日本の農業は全体として崩壊すると思う。小規模農家を支援するような農業技術の普及や経済的な意味での支援の環境づくりが必要である。
- ・山間の小さい田は耕作に手間がかかり渴きも悪く出来も少ないため耕作を頼める人がいないため自然放棄となる。
- ・直販できるスーパー等の場所。
- ・農業放棄地をなくすための相談窓口等の充実を急ぐ。農業委員会、JAの役目は何の役にも立ってない。もっと真剣に目をむけてほしい。農業従事者の高齢化を今すぐに考えてほしい。
- ・伊賀米も他のブランド米との味覚は決して劣らないと思う。もう少し盆地としての全国的なアピール活動を尚一層の強化を求め全国的に知名度が上がるよう求めます。
- ・農業に若い人が感心のもてる経営を市が広く説明する事。
- ・話すすと長くなります。書くとなると、更に長くなるので記入しませんが、良いプランの

策定に期待しております。ご苦勞様です。

- ・農業委員選挙人名簿の名義が虚偽が多い、賃借についても虚偽がある。
- ・現状のままでは耕作放棄地が増加するだけ。土地利用型後継者を育成することが必要であり、市も支援すること。現状では名張市の農地は守れない。食に関する第1次産業、（農業）を保護する必要あり。農業に関する専門職員を採用すること。
- ・名張市の入り組んだ地形を利用したこだわり農業に徹したい。都市部に比較的近く若者が取り組みやすい場所であり工夫等で大きく進展できると確信している。
- ・①設問で「10年後」とありますが、「10年後」では何もすすまないと思います。まずは「2年以内」に何を指すかを計画し完成させすすむことと思います。②地籍調査をまず完了させてください。（やっているのですか？）これができていないと何もできないと思います。（むしろトラブルの時限爆弾と思います）
- ・年々鳥獣被害が増加しているが、国や県・市の補助がカットされたりして困っている。
- ・振興策ではないが、耕作放棄地に雑草が生い茂り、生活道路の通行の障害となっている。至急対策要。
- ・①農地の改良と維持のための行政支援（基盤整備の拡充）②都市計画（土地利用の制限）の整備③農業振興計画の立案策定と農業振興予算の確保
- ・農地法改め、転用できやすく。
- ・採算の取れる農業になれば良いと思う。
- ・将来を見据えて農業者（若手・中、大規模）の方が自立して生活できるよう市でも予算を拡大。名張の農地を守ることを考える。